

ONGA

1990 遠賀町 町勢要覧



An aerial photograph of a Japanese town, likely Tohatsu, showing a mix of urban development and green fields. A river flows through the town, and a railway line is visible. The sky is clear and blue.

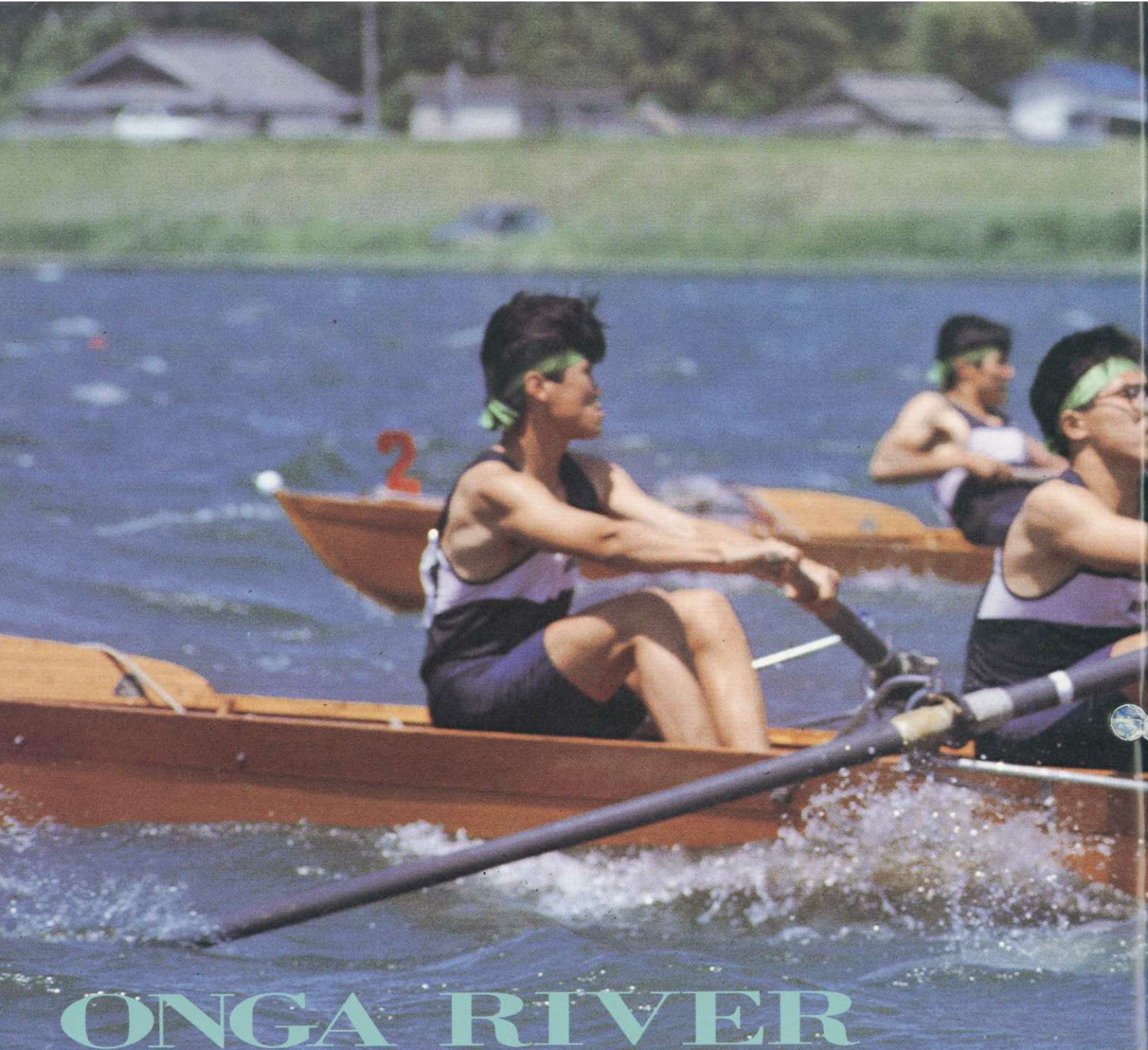
C O N T E N T S

漕艇場	2
総合運動公園	4
スポーツ	8
カルチャー	10
まちづくり	12
福祉・保健	14
学校教育	16
農 業	18
商工業	20
防災・防犯	21
遠賀町マップ	22
遠賀霊園	23
祭 り	24
遠賀町モニター会議	27
行政・議会	28
生活都市づくり	30

悠悠と、のびのびと、人も自然もおおらかな町

このまちが、私たちの故郷
青い空、白い雲が映える川があり
秋には黄金色が波うつ水田がある
春、夏、秋、冬
私たちは、オゾンいっぱいの空気を心に満たし暮らしを営んできた
いつも、あたたかく、力強く
私たちを迎えてくれる、まち





ONGA RIVER

川面を夏の陽ざしと スポーツマンの声が流れる。

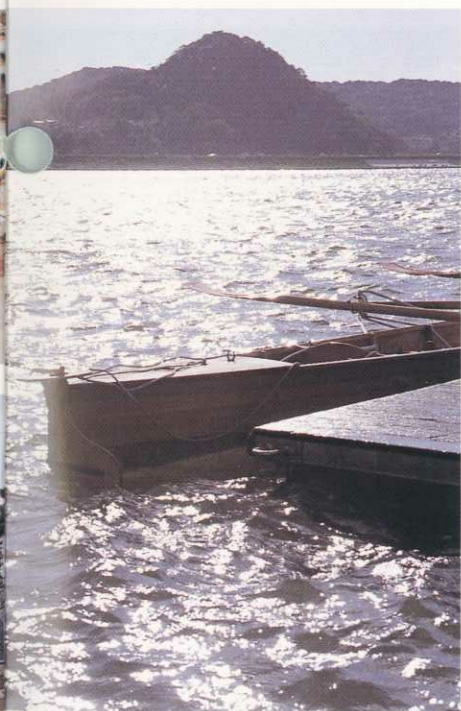
遠賀川漕艇場

霊峰英彦山にその源を発し、60余キロの旅を続けてきた「母なる大河」遠賀川が、河口でその旅を終えるころ、そこに静かで広大な水面が姿を現わします。この静止水面を利用し住民のレクリエーションゾーンとなっているのが遠賀川漕艇場です。

この漕艇場は、直線2千メートルのコースを持ち、全国大会はもちろん国際試合の開催も可能なA級クラスのコースで、合宿所、艇庫などの施設も完備しており、シーズン中には大学生、高校生の姿が絶えることがありま

せん。毎年春に開催される九州朝日レガッタには、九州各县や山口などから100クルー・400人を超す参加者があり、西日本の漕艇のメッカとなっています。また、毎年8月には、この漕艇場で「水上カーニバル・イカダ競争」が開催され、ユニークなイカダが川を色どり、暑い夏の日、笑いと声援に包まれます。とくに平成2年、福岡県では2回目の第45回国民体育大会「とびうめ国体」が開催されます。遠賀町では、9月9日から12日までの4日間、夏季大会の漕艇競技が行われます。澄み切った秋空の下、白熱した好ゲームが展開されることでしょう。





●遠賀川漕艇場の概要

所在地 福岡県遠賀郡遠賀町大字島津

漕艇場 直線2,000m・6コース

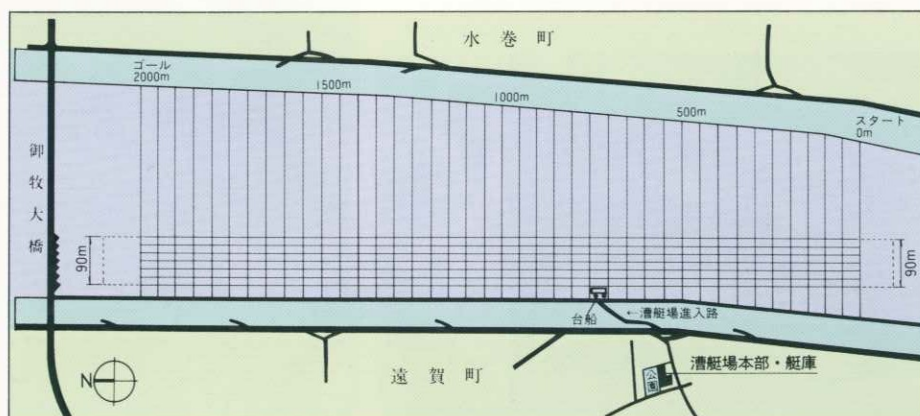
本部棟・艇庫

敷地面積 2112.54m²

構造 鉄骨造2階建

建築面積 768.39m²

延床面積 983.13m²



漕艇場概略図



総合運動公園は、体育館、コミュニティセンター、テニスコート、弓道場などを合わせもつ、町民のための、文化・体育施設です。心の豊かさや、健全な生活を営むための町民の拠点として、広く活用していただくために建設されました。

体育館は、鉄筋コンクリート2階建て。バレーボール、バスケットボールコートの他、トレーニング室、研修室、ギャラリー完備。コミュニティセンターは、多目的ホールと、集会室、サークル活動室、喫茶、ラウンジ。浴室、厨房があるので宿泊しての研修にも利用できます。

THE PARK

総合運動公園

はつらつと、元気な心がはじけている

屋外には、ナイター照明がついて、夜間でも利用のできるテニスコートが6面。同じくナイターが可能で、野球、ラグビー、サッカーなどに使える多目的グラウンドがあり、オールシーズン活用されています。特に18ホールのパティーバットゴルフ場、ゲートボール場は人気のある施設です。





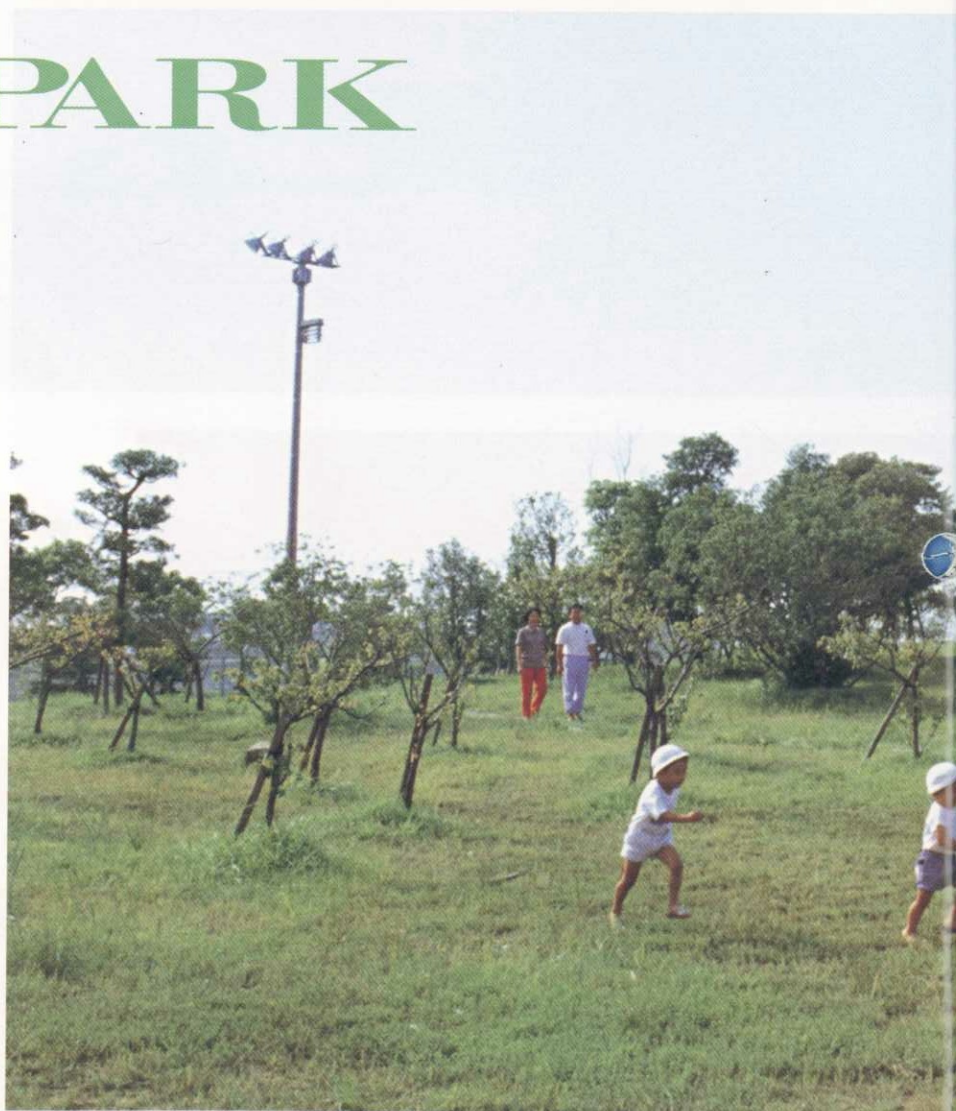
総合運動公園では、子どもたちの健全な育成や、町民の生涯教育などにも、幅広く活用されています。

町民の森、水辺の広場、緑の広場は、自然をもっと身近なところで触れ合ってもらおうと作られたナチュラルスペース。四季それぞれの風景を味わうことができます。また、子どもたちが自由にのびのびと遊べるのが、アスレチック広場。遠賀町の将来を担う子どもたちの情操教育にも一役買っています。

THE PARK

総合運動公園

弓道場、相撲場。さらに、趣味多い、豊かな人生を送ってもらおうと、どなたでも利用できる陶芸室を設けました。家族のレジャー、林間学校に利用できるキャンプ場もあります。どの施設も、町民の皆さんが利用しやすいシステムで、今後も、遠賀町の文化、スポーツの拠点として期待されています。



おはよう、こんにちは。
みんな、ここでは友だち、仲間。



平成2年9月、福岡県で開催の“とびうめ国体”。遠賀町は漕艇競技会場になっています。競技人口も増加しているボート競技のほか、コミュニティセンター、各小中学校グラウンドを利用して、本町のスポーツ人口は、増加傾向にあります。

剣道、小林寺、弓道、柔道の武道。成年、ママさん、シニアと幅広い人気のバレーボール、卓球、バドミントン、小学生（男女）の中心となったサッカー、県大会の常連である野球、誰にでも気軽に楽しめるインディアカなどのクラブ、サークルが現在、活動中です。



COMMUNITY

スポーツ

ファイトいっぱい、笑顔もいっぱい レッツ・トライ!

これからは、ますます余暇を楽しむ人が増えることが予想されます。各種スポーツ施設の整備、手軽に使えるシステムづくりに力を入れる必要があります。









家事の省力化、寿命の伸びとともに、人々が余暇を楽しむ機会が多くなりました。また遠賀町民の文化向上へのニーズも、年々大きくなってきました。そのような声に応えるため、コミュニティセンター、遠賀中央公民館を中心にさまざまな活動が行われています。多種多様な情報が、私たちのまわりにあふれている現在、どのような活動を選ぶかで、人生を、より実りあるものにできるかが決まると言っても過言ではありません。

町民ひとりひとりの趣向に合った、心身ともに健康で、明るく、楽しい、コミュニティ、カルチャー活動のお手伝いをするのが、町の目指すところです。人生80年と言われるようになりました。これからは、生涯教育のもつ意味も、さらに大きなものになっていくでしょう。

COMMUNITY

コミュニティ・カルチャー



豊かな人生には、
たくさんの出会いがある。

遠賀町中央公民館

みんなで利用する図書室



川原美智子
中央公民館係

生涯教育をいかに進めていくかの中で、図書の占める割合は高いものがあるのではないのでしょうか。幼児、児童、青少年、大人へと成長する過程において、その時その時出会った図書にそれぞれの思い出をお持ちの方も多い事でしょう。同じ本を数十年後、又読み直して新たな発見をする事も多々あります。又、目の不自由な方にもご利用できる図書室になるようにもしたいと思っています。あふれる情報の中で、どの情報を取り入れていくかは、あなたの自由です。

インタビュー

遠賀川の下流域、豊かな水田地帯として誕生した遠賀町は、誕生以来、満25年を迎えました。隣接する北九州市のベッドタウンとして、人口は当初より2倍になり、それに合わせて年々、各種施設などが整備されました。近年では、町民体育館の建設、土地改良事業、遠賀総合運動公園グラウンドのナイター照明設備などが実現しました。

今後、町全体として力を入れていきたいのは、魅力ある生活都市づくり、さらに人づくりのためのふれあい事業です。そのためには、町民すべてが健康で文化的な生活を営めるよう福祉の向上を図ることが必要であり、町全

COMMUNICATION

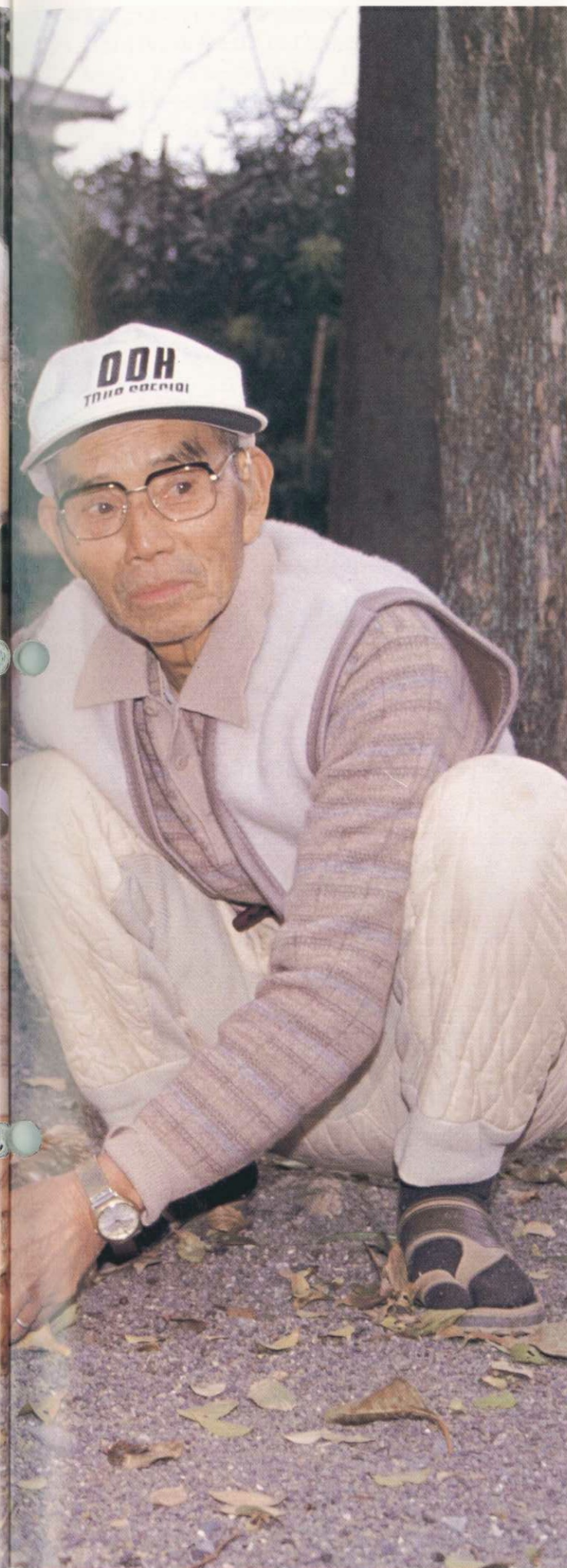
まちづくり

生涯教育による魅力ある、生活都市づくりを。

体で積極的に取り組んでいかねばなりません。

近年、実施している企画のなかで、人気があり、かつ軌道に乗っているものに、バスをチャーターしての文化ふれあい事業があります。毎回定員を越えるほど好評です。また、高齢者の生きがい対策事業として、遠賀地鶏の飼育を推進しており、西川河川敷に福祉関係施設を建設する構想もあります。このように、だれもが長生きしてよかったと感じられる長寿・福祉社会のシステムづくりを目指しています。





文化ふれあい事業 バスツアー



■町民こぞって文化に親しむ。

町民の皆さんに、広く文化に親しんでいただこうと、昭和63年度より実施している“文化ふれあい事業”秋晴れの一日、柳川見学とウナギを味わうことを目的とした“柳川グルメツアー”を行いました。バスをチャーターし、マヨネーズ工場見学、北原白秋生家・お花邸見学、そしてウナギに舌鼓。すぐに定員いっぱいになるという、たいへん好評なツアーでした。今後も、美術館・博物館などを訪ねるツアーを予定しています。町民の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

ひとりひとりが 安心して暮らす社会を。 WELFARE

福祉・保健

高齢化社会と言われる現代。遠賀町でも65歳以上の人口が占める割合は11.6%と、年々増加の一途をたどっています。

老人の世話や介護に手がかり、日常生活に負担がかかるご家庭のための、在宅老人期保護。一人暮らしのお年寄り、老夫婦のころへは、定期的に家庭奉仕員が巡回します。また、お年寄りに生き生きとした生活送ってもらい、地域との結びつきを深めてもらうようにと、行政区ごとに敬老会を開き親睦を深めています。

老人の福祉とならんで、福祉政策のうえ柱としているのが子どもたちの健康です。来を担う子どもたちの健康を守るために、幼児相談、検診を行っています。相談、検で気がかりな点が発見された乳幼児に対しては、保健婦が家庭訪問するなどして、確實フォローしています。

さらに、町民の健康を守り、病気の早期見をするために、スケジュールを組んで、行政区ごとに総合検診を行っています。実の前には町民に参加をアピール、検診率を上げるよう努めています。

子どもからお年寄りまで、町民全員が安心して暮らせる福祉の推進が、私たちの目標です。そのためには、行政の施策だけでなく町民の福祉への関心を深め、ボランティア育成することも必要となってきます。





麻生ヨシノ
保健婦

何でも相談を。

17,000人いる遠賀町民の皆さんの、一生の健康管理が私たちの仕事です。それぞれの家庭の雰囲気をつかんで、家庭に合った指導をしていきたいですね。「おかげでよくなりました」と言われると、仕事をしていてよかったと思います。どんなことでも相談に来てください。



高崎弘美
保健婦

訪問に力を入れない。

これからはもっと、訪問に力を入れないと思います。乳児検診でちょっと気になった赤ちゃんを訪問して、元気であるとほっとしますね。皆さんが私たちに何をしたいか、すぐにわかる保健婦になりたいですね。

インタビュー

思いやりのある心を育てる学校を。

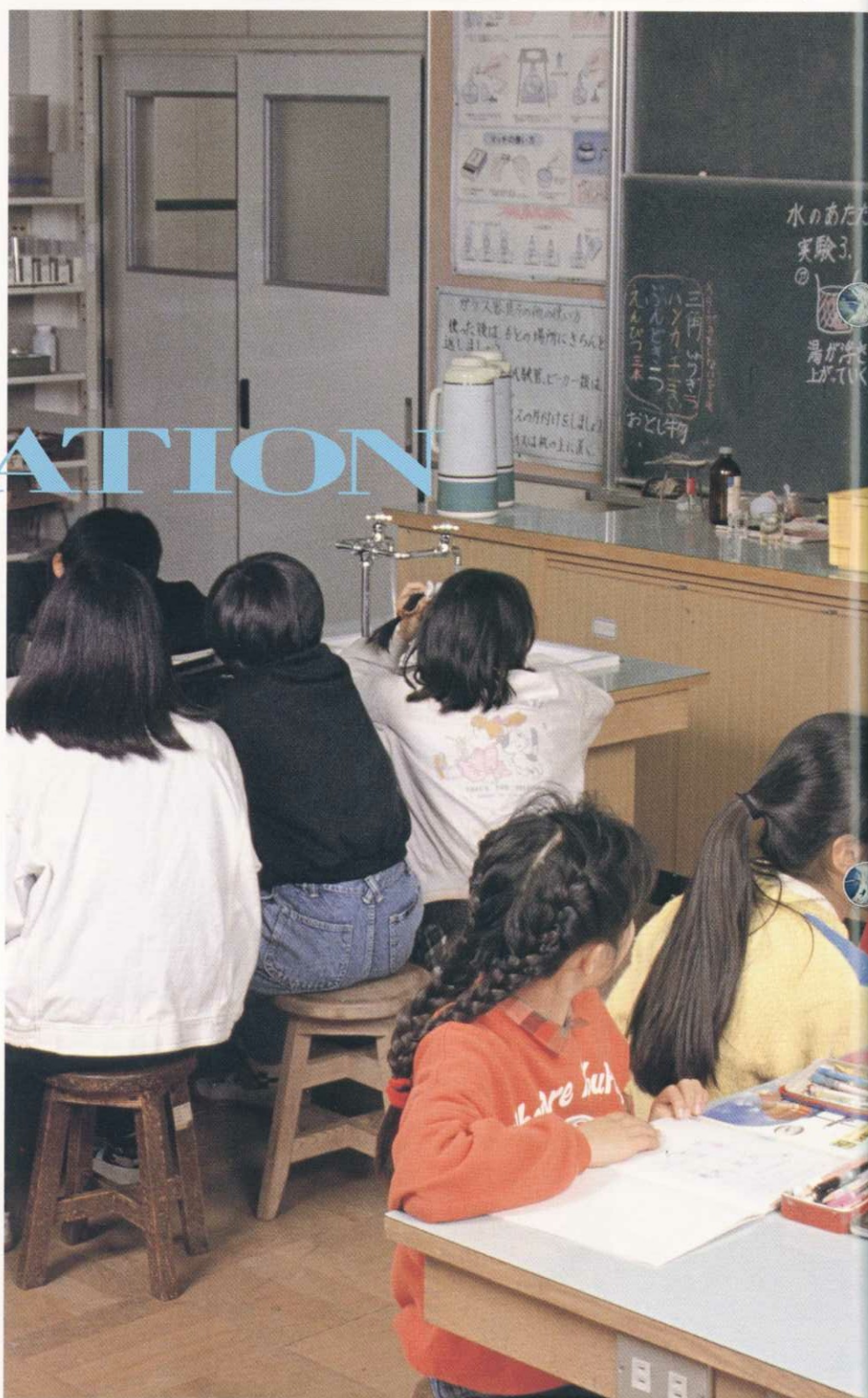


児童・生徒の創造性の伸長や心豊かな情操の育成をめざして、人間としての基本・個性を伸ばす教育を重視します。さらに、特色ある学校づくり、他人への思いやり、自己を大切にする心を育て、活発な学校生活のために、次の6つをポイントにしています。

EDUCATION

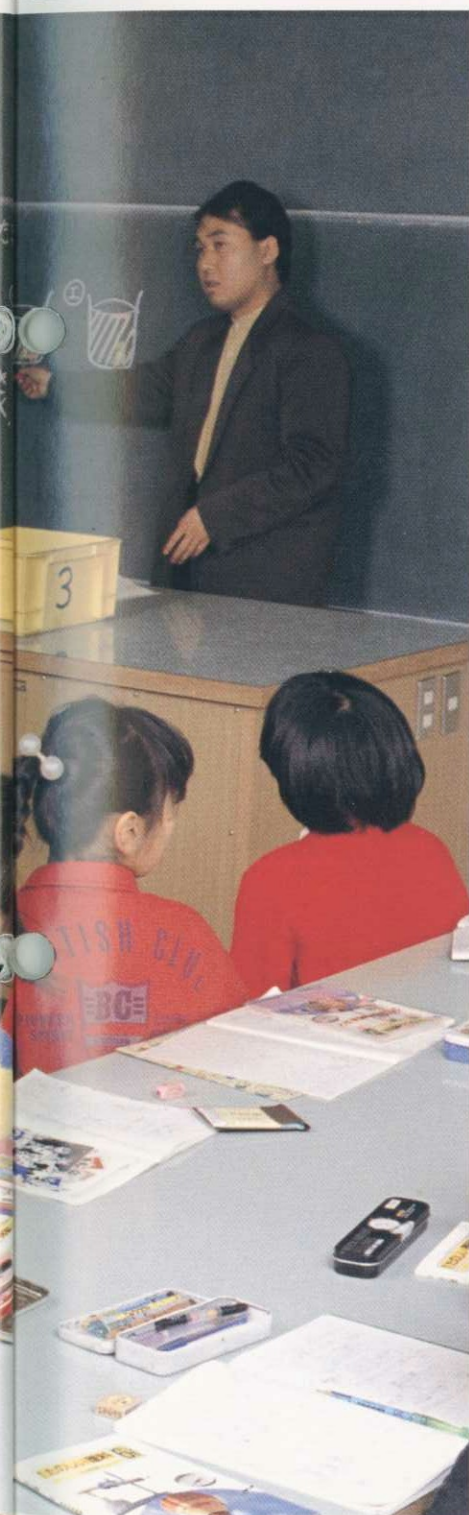
学校教育

1. 調和のとれた人間形成をめざす学校教育内容の充実をはかる。
2. 使命感あふれ、実践的指導力を持つ教職員の資質の向上をはかる。
3. 児童、生徒の体力の増強と保健安全給食指導の徹底をはかる。
4. 特殊教育の振興につとめる。
5. 基本的人権の尊重に徹する同和教育の推進につとめる。
6. 人間性豊かな児童・生徒を育てる教育環境の整備につとめる。





学校給食センター



学校田、田植え



かずのり
坂本一紀さん
浅木小学校 5 年生担任

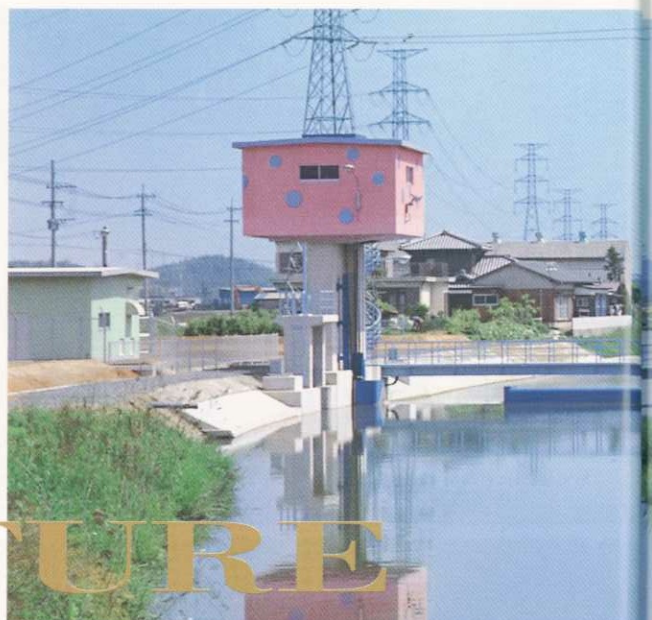
楽しく学んでほしい。

この町は、農村と新興住宅地の混合型で、子どもたちは皆んな素直で明るい子ばかり。競争心が芽生えないと心配する人もいるけど…。浅木小では毎年、体験活動を重視した『楠竹教育』^{なんちく}を行っています。昨年度は、学校田で米作りを一緒に学んだんですが、子どもたちは、楽しそうで生き生きしていましたねえ。遊びながら学ぶっていうんですか、そんな子どもの成長する姿を見るのが、教師の喜びだと実感しました。

インタビュー

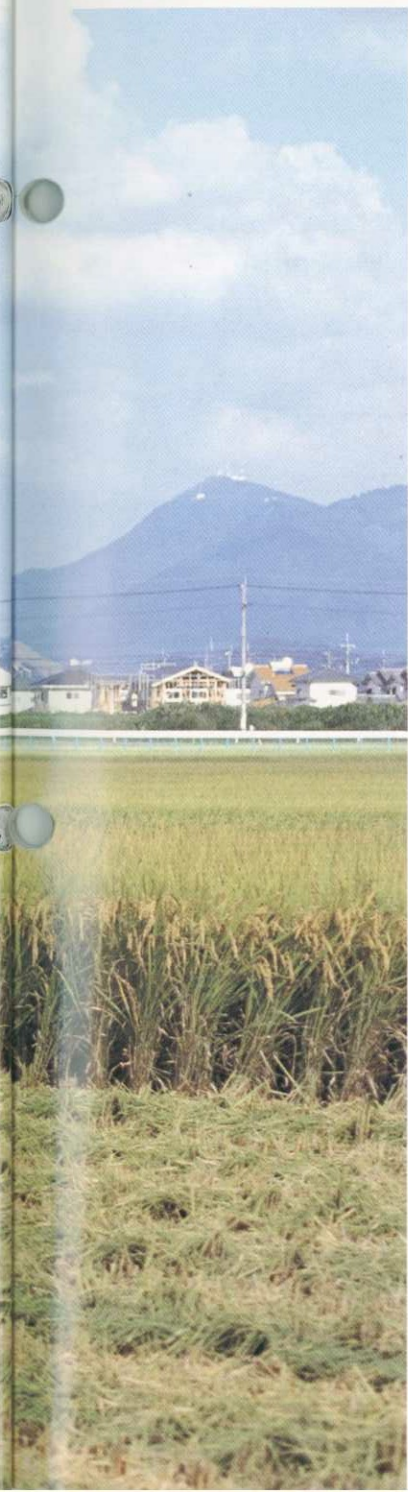
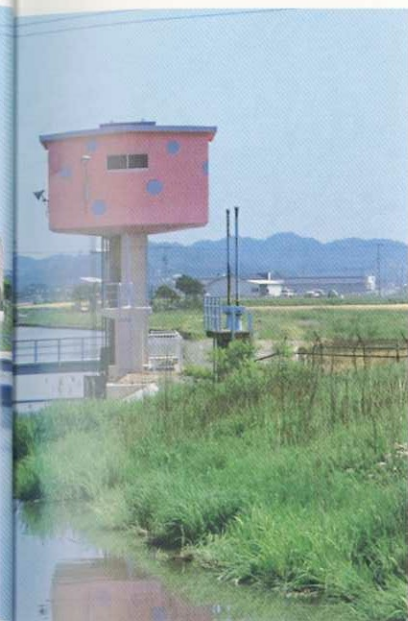
AGRICULTURE

農業



21世紀を支える産業として、 秀れた後継者の育成を。

西暦2000年、遠賀町には670haの農地が存在すると見込まれています。’70年をピークとする離農傾向にストップがかかり、本町では比較的順調に、農業後継者の育成、各農家の規模拡大が進んでいます。さらに順調な発展を実現するために、競争力をつけることが重要です。そのために、農業生産基盤の整備と生活環境の改善、中核的農業経営の維持・育成と後継者の確保、農業振興指導体制と一元化をより進め、地域農業全体の強固な営農体制の確立をめざします。



フキのハウス栽培



イチゴ



イチヂク



すし た やす ゆき
筋田靖之さん
農業

稲作りが、 面白くなった。

農業を継ぐと言ったとき、親父は最初反対したんです。大変だからって。でも、稲作りって、自分なりに栽培方法を工夫していくと、なかなか面白いんです。これからは、消費者の皆さんが欲しいと思う米、無農薬米とかブランド米とかが、いつでも手に入る流通のしくみができるといいと思います。個人的な面では、もっと時間を上手に使って、自分の時間、子どもとの時間を増やしていきたいと思っています。

インタビュー



IC部品の組立て

商業の振興は、産業育成と機能充実という2つの視点から考えていかなければなりません。消費需要に対して、今後は、ショッピングだけでなく、楽しめる要素を持った『ひろば=中心商業地区』を形成していかなければなりません。

また、工業に関しては、地域の経済・生活にプラスになり、就労機会を拡大する点からも、企業の果たす役割は軽視できません。

居住環境や農業の維持、発展と調和する企業については、積極的に導入、育成する必要があります。そのためには、早期に計画を策定、適切な用地への誘導、指導と規制



発光体の製造

INDUSTRY

商工業

より豊かに
さらに、ひとりひとりに合った生活を。

による緑化や美化の義務づけが必要です。



発光体の製品

安心とゆとりがある生活、 「安全なまち」を目指す。

小さな子どもからお年寄りまで、安心して暮らせる生活のための防災・防火対策。町民の生命、身体および財産を保護することが第一ですから、総合的かつ計画的な防災対策がなされなければなりません。

地勢は、英彦山^{ひこさん}に源をもつ遠賀川左岸に沿い、湾曲状に広がる遠賀平野の中心部で、町域の大部分は平坦な低地部に属しています。そのため、本町における主な災害は、梅雨時期^{ひこさん}の水害、土砂崩れをはじめ、台風や季節風などによる風害および干害などによる被害があげられます。特に梅雨期の集中豪雨は地理的形狀からみて最も影響をうけやすく、



PREVENTION

防災・防犯

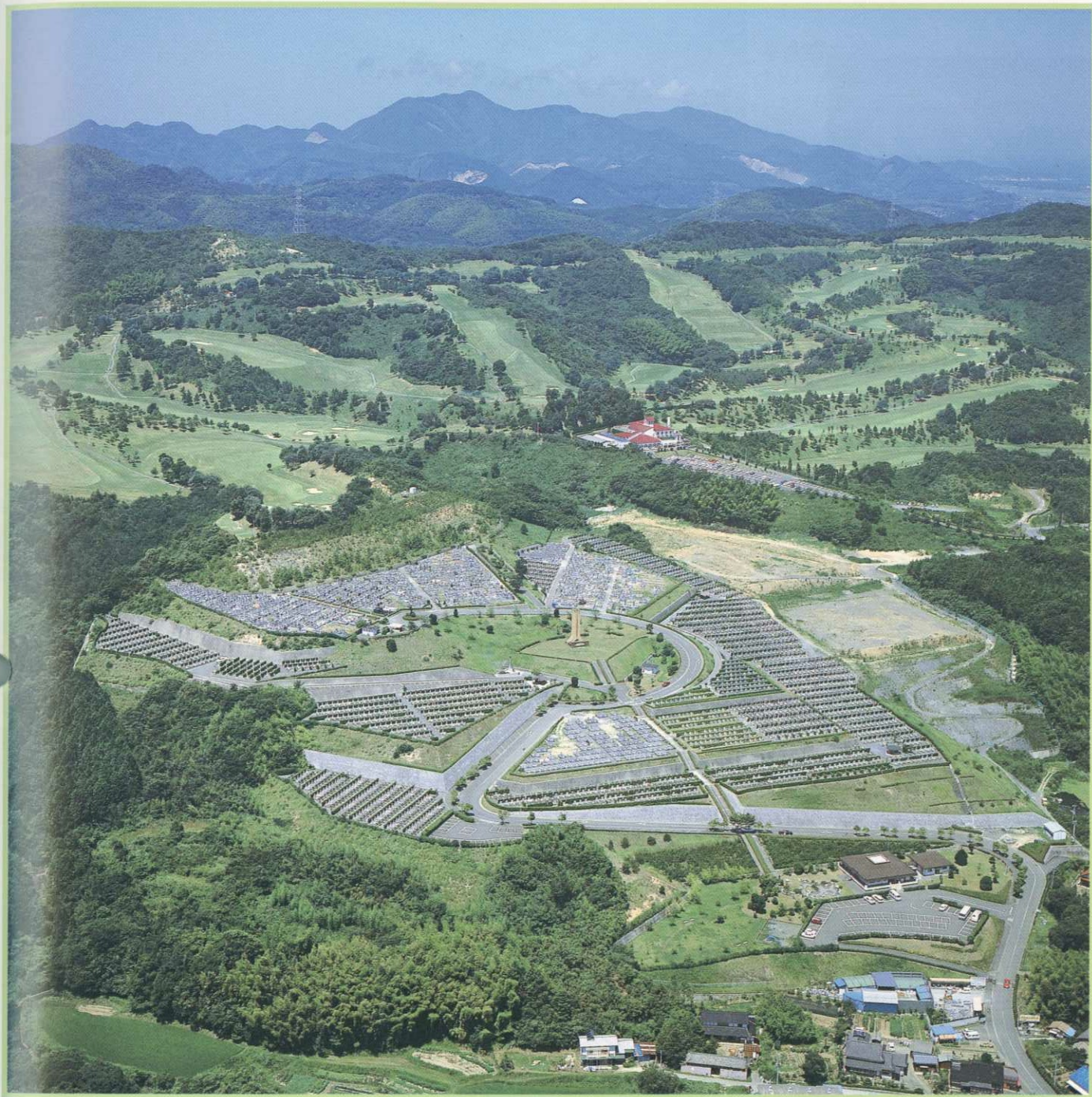
過去も昭和28年の大水害をはじめ、被害が記録されています。そのため本町では、災害に備えて「遠賀町水防計画書」を作成、積極的に取り組んでいます。



遠賀町

M・A・P





■町営遠賀霊園

四季の美しい丘陵は、永遠のやすらぎの地。

豊かで実り多き人生——。

輝かしい歳月にも、必ず終わりを迎えるときがやってきます。いつまでも、心静かに眠ることができる…。墓地は、永遠のやすらぎの地であり、子どもたち、孫たちにとっては、祖先の霊、思い出との、おごそかなふれあいの場です。

お彼岸、命日、折にふれ訪れてほしい。遠賀霊園は、故人となられ眠る方にも、故人を愛したご親族の方にも、十分にご満足いただける公園墓地です。

周囲をまぶしいほどの緑と、清らかな水に囲まれ、四季お

りおりの花に彩られる。遠賀平野を一望できる丘陵地に、遠賀霊園は立地しています。祖先をうやまう「こころ清らかな安らぎの場」として、皆さまに親しまれ続けることでしょう。

所在地 福岡県遠賀郡遠賀町大字虫生津

総面積 136,161m²

全体基数 5,520基



●夏まつり、盆踊り

そろいの浴衣でリズムに合わせ。遠賀町のきれいでこころが競艶します。



●子どもまつり

5月にコミュニティーセンターを中心にたくさんの催物でにぎわっています。



●ふれあい釣り大会

「わあ〜、でかい」。文化の日、遠賀町の自然に親しんでもらおうと企画された大会には町内だけでなく、福岡市からも太公望がやってきます。



これまでも、これからも。

だから伝えていきたい、

ふるさとを思う心はひとつ。

太鼓の音、威勢のよい声
ここにはふるさとへの表情がある





●遠賀太鼓

子どもたちの、息の合ったパチさばきがみごと。この熱気は、次代の子どもに受けついでほしい。

収穫を祈り、
豊年万作を願う祭り。
老いも若きも、
いっしょになって汗をかいたり、
見知らぬ人と友だちになったり…。
時代は変わっていても、



●水上カーニバル

アイデアいっぱいのいかだで、遠賀川を下る。本格派からパロディ、ユーモア派まで、川は色とりどりのいかだでいっぱい。



O N G A

町民 体育祭

10月10日、町民こぞって、スポーツの秋を満喫します。真剣さと笑いがいっぱい。ハッスルプレー・珍プレーが続出です。



母、妻、女性そして一人の人間として 積極的に行政に アプローチしていきます。



まちづくりの主人公は町民の皆さんです。まちの未来とその生活環境を考えるうえで、町民みずからが地域社会の一員としての役割を持ち、まちづくりに参加すること。遠賀町では、このことがまちづくりの基礎であると考えます。

遠賀町女性モニター制度は、高山町長の公約でもあり、町民の声が町政に的確に反映するようにと発足しました。特にモニターを女性に限ったのは、家庭生活の中で、ごみ及びし尿処理、教育、福祉問題など、行政と深くかかわりながら、現実には行政に参加する機会が少ないからです。また、町政への要望やアドバイスをいただきながら、行政に参加し、理解していただくことが目的です。

第1回女性モニター会議では、初回にもかかわらず、うちとけた雰囲気の中でさまざまな意見が飛びかいました。地域ごとの個性、皆さんの生活に密着した意見に、町長はじめ行政サイドでは熱心に聞きっていました。（平成元年1月20日（土）実施。遠賀町コミュニティセンター）



議会と行政と住民の三者の関係は住民から選挙という形で議会と行政に対して行われ、住民は行政から各種の施策、議会からは条例制定などの成果を得ています。民主政治にあたってはどれかひとつが弱くなっても後退していくという関係にあり、このバランスが重要な要因となっています。

本町の議会においては、予算・決算の審議、町長への質問、陳情、請願の採択などを通じ

バランスのとれた民主政治を目指して 町民と一体となってガンバっています。

て、地域住民の意向を行政に反映させており、行政運営において議会がチェックアンドバランスの関係をもって立法府としての機能及び役割を果たしています。

また、行政も地域の問題や住民の関心事を積極的に取り上げ政策に対する考えを行政に反映させるための活動（おんが目安箱、女性モニター制度など）が特質されます。



第1委員会



第2委員会



農村のゆとりと都市の活力を持つ、
“豊かな生活都市”をめざして。

21世紀まで、いよいよあと10年を残すばかりとなりました。昨年、日本は激動の時代であった昭和を終え、平成の世を迎えました。世界に目を向けましても、米ソ両大国は、相互理解、平和協調のための歩み寄りを続け、東欧各国では、民主自由化のための大きなうねりが駆けめぐりました。さらに、西ヨーロッパ諸国は、来たるべき'92年にEC(ヨーロッパ経済機構)の統合を迎えます。また長いことアパルトヘイト(人種隔離政策)によって閉ざされた国であった南アフリカでは、黒人解放指導者、N・マンデラ氏が獄中から釈放されました。世界は、90年代を迎えるにあたって急速に、しかもしっかりと足どりで変化をとげようとしています。このような大きなうねりの中で、世界各国の日本に対する関心は高まり、一層の国際協力が求められることとなるでしょう。

私たちが住む遠賀町は、英彦山に源を発する遠賀川の河口近くにあり、肥沃な遠賀平野の中心部に位置している町です。収穫の秋には黄金色の穂波が、町中のいたるところ

でうねります。北九州市と福岡市の中間に位置し、豊かな自然と都市の活力を合わせもつバランスのとれた、住みやすいまちです。しかし、より一層の国際化が求められる情勢の中で、地域社会においても、新しい感覚での創意工夫と努力を重ねていく必要があります。

超高齢化社会問題、村おこし、心のふれあうふるさと創りなど、積極的に取り組んでいく所存でございます。そこで求められる人材育成を最大の課題として、住、職、自然の調和のとれた町づくり。住民の皆さん自らが、考え、行動することができる、21世紀にふさわしい遠賀町。微力ではありますが、誠心誠意をこめて、皆さまとともに前進してまいりたいと思います。

遠賀町長 高山和幸



遠賀町民憲章

わたしたちは、
農村のゆとりと都市の活力をあわせもつ
豊かなまちづくりをめざし、
次の目標を定めます。

- 一、水と緑と伝統を生かし、文化の香りを高めます
- 一、ふれあいを大切にし、明るいまちをつくります
- 一、仲間の輪をひろげ、生活を創り楽しむまちにします
- 一、みんなで、住みたくなるまちづくりにつとめます



遠 賀 町



町の花「スイセン」

ヒガンバナ科の多年生草本で地中海沿岸の原産、球根は鱗茎、葉は細く線状をなして群生。11～3月頃花茎を出し開花する。冬の寒さに耐えて力強く、水仙の魅力は気品があって清楚で清潔感にあふれ香り高い車花である。町民が育て愛し郷土の緑化、花いっぱい運動に努力してほしいものです。



町の木「モクセイ」

モクセイ科の常緑小高木で中国の原産、葉のつけ根に群生する。花の芳香は独特で庭園木としてこれに優るものはない。町内の各家庭や学校、公民館等公共施設に緑と芳香が漂い自然に親しむ町として緑化の気運を高めたものです。

遠賀町 '90

資料編

目次

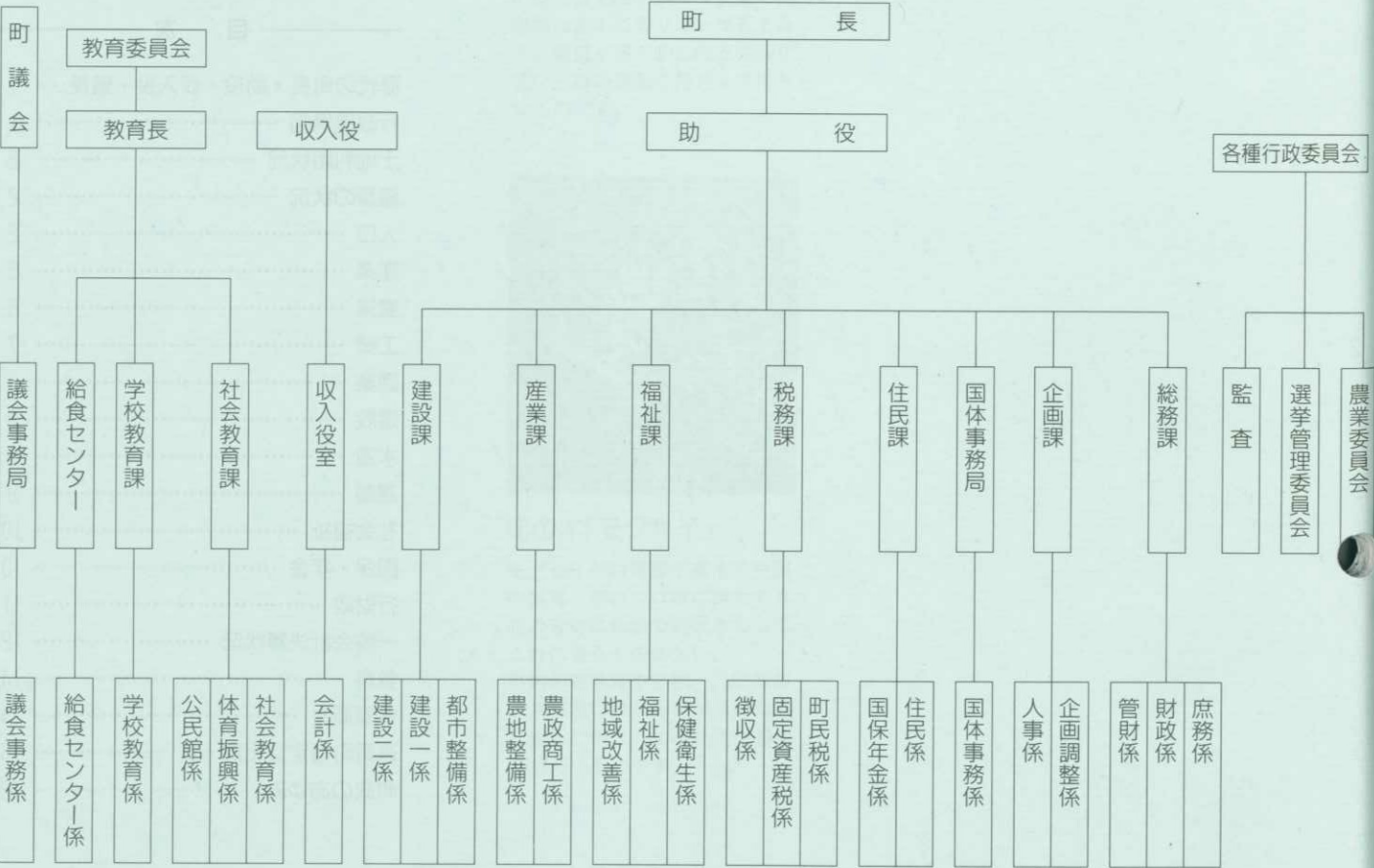
歴代の町長・助役・収入役・議長 …	1
行政機構図 ……………	1
土地利用状況 ……………	2
建築の状況 ……………	2
人口 ……………	2
産業 ……………	5
農業 ……………	6
工業 ……………	7
商業 ……………	8
建設 ……………	8
水道 ……………	9
運輸 ……………	9
社会福祉 ……………	10
国保・年金 ……………	10
行財政 ……………	11
一般会計決算状況 ……………	12
教育 ……………	14
保健衛生 ……………	14
遠賀町指定文化財一覧 ……………	16
町政のあゆみ ……………	18

歴代の町長・助役・収入役 歴代の正・副議長

(※昭和39年4月1日町制施行以降)

	歴 代 町 長	歴 代 助 役	歴 代 収 入 役	歴 代 議 長	歴 代 副 議 長
1	小 川 登 一 郎 (昭和38年5月1日)	有 吉 寿 (昭和38年10月1日)	小 川 泰 (昭和35年5月7日)	柴 田 貫 蔵 (昭和38年5月10日)	有 吉 茂 也 (昭和38年12月11日)
2	柴 田 貫 蔵 (昭和46年4月25日)	小 川 泰 (昭和42年10月10日)	太 田 悟 (昭和42年10月10日)	中 山 包 久 (昭和42年5月11日)	重 広 新 (昭和42年5月11日)
3	柴 田 貫 蔵 (柴田50年4月27日)	柴 田 武 門 (昭和47年10月3日)	山 本 豊 (昭和46年10月21日)	中 山 包 久 (昭和46年5月4日)	高 崎 重 徳 (昭和46年5月4日)
4	柴 田 貫 蔵 (昭和54年4月27日)	柴 田 武 門 (昭和51年10月3日)	三 砂 貞 利 (昭和51年3月26日)	高 崎 重 徳 (昭和48年4月20日)	柴 田 涼 (昭和48年4月20日)
5	柴 田 貫 蔵 (昭和58年4月27日)	柴 田 武 門 (昭和55年10月3日)	石 橋 清 美 (昭和55年3月27日)	中 山 包 久 (昭和50年5月8日)	木 野 國 繁 (昭和50年5月8日)
6	高 山 和 幸 (昭和62年4月27日)	柴 田 武 門 (昭和59年10月3日)	石 橋 清 美 (昭和59年3月27日)	中 山 包 久 (昭和54年5月4日)	井 口 時 彦 (昭和54年5月4日)
7		仲 野 丈 (昭和62年11月13日)	室 井 百 人 (昭和62年8月1日)	井 口 時 彦 (昭和56年5月22日)	秦 玉 彦 (昭和56年5月22日)
8				井 口 時 彦 (昭和58年5月10日)	秦 玉 彦 (昭和58年5月10日)
9				秦 玉 彦 (昭和62年5月7日)	柴 田 征 一 郎 (昭和62年5月7日)

遠賀町行政機構図



土地利用状況

各年1月1日現在

区分 年度	総数(千㎡)	田(千㎡)	畑(千㎡)	宅地(千㎡)	山林(千㎡)	沼地(千㎡)	原野(千㎡)	雑種地(千㎡)	その他(千㎡)
昭和56年度	22,410	7,904	1,022	2,361	3,952	26	401	1,512	5,232
57	22,420	7,574	978	2,392	4,032	20	430	1,809	5,185
58	22,420	7,486	987	2,423	4,030	20	435	2,026	5,013
59	22,420	7,455	980	2,441	4,172	20	443	2,023	4,886
60	22,420	7,399	973	2,548	4,114	20	439	1,951	4,976
61	22,420	7,342	970	2,582	4,112	20	433	1,979	4,982
62	22,420	7,326	968	2,596	4,110	20	433	1,967	5,000
63	22,420	7,307	966	2,616	4,118	20	433	1,937	5,023
構成比(%)	100	32.6	4.3	11.7	18.4	0.1	1.9	8.6	22.4

資料 固定資産概要調書

建築の状況

各年1月1日現在

区分 年度	総 数		住 宅		非 住 宅	
	棟 数	建築面積(㎡)	棟 数	建築面積(㎡)	棟 数	建築面積(㎡)
昭和56年度	6,147	573,891	3,695	329,643	2,452	244,248
57	6,384	594,002	3,901	362,727	2,483	231,275
58	6,620	608,612	4,126	382,004	2,494	226,608
59	6,811	629,166	4,192	394,157	2,619	235,009
60	6,937	644,631	4,391	403,639	2,546	240,992
61	7,172	672,011	4,589	422,557	2,583	249,454
62	7,329	690,448	4,741	439,301	2,588	251,147
63	7,492	710,915	4,893	455,474	2,599	255,441

資料 固定資産概要調書

自然動態

各年4月1日現在

区分 年度	出 生 (人)			死 亡 (人)			自 然 増 減 (人)		
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
昭和57年度	178	104	74	103	54	49	75	50	25
58	183	93	90	95	50	45	88	43	45
59	139	73	66	110	54	56	29	19	10
60	166	85	81	125	78	47	41	7	34
61	149	86	63	112	63	49	37	23	14
62	123	63	60	105	57	48	18	6	12
63	138	72	66	100	48	52	38	24	14

資料 住民登録人口

●人口の年齢構成割合

	年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口 65歳以上	
	22.5% 2,327人		67.7% 6,989人		9.8% 1,015人	
50年度	男 1,150人	女 1,177人	男 3,340人	女 3,649人	男 420人	女 595人
10,331人						
55年度	24.4% 3,456人		66.5% 9,441人		9.1% 1,227人	
14,184人	男 1,748人	女 1,708人	男 4,574人	女 4,867人	男 528人	女 759人
60年度	22.1% 3,544人		67.4% 10,756人		10.6% 1,691人	
15,991人	男 1,839人	女 1,705人	男 5,096人	女 5,560人	男 633人	女 1,028人

●社会動態

各年4月1日現在

年度	区分	転 入 (人)			転 出 (人)			社 会 増 減 (人)			その他の増減(人)		
		総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
昭和57年度		1,255	620	635	847	451	396	408	169	239	△78	△40	△38
58		1,079	539	540	859	441	418	220	98	122	△12	△11	△1
59		791	407	384	865	472	393	△74	△65	△9	△100	△62	△38
60		1,016	528	488	776	398	378	240	130	90	△14	△7	△7
61		1,043	553	490	750	398	352	293	155	138	△4	△3	△1
62		1,035	521	514	838	455	383	197	66	131	△4	△3	△1
63		1,085	554	531	873	486	387	212	68	144	△1	△1	0

資料 住民登録人口

●地区別の世帯数と人口

平成元年3月末日現在

地区名	世帯数(戸)	男 (人)	女 (人)	計 (人)
島 津	38	67	57	124
若 松	105	170	202	372
鬼 津	212	369	435	804
尾 崎	177	323	367	690
田 園	220	418	452	870
別 府	554	999	1,063	2,062
今 古 賀	125	184	220	404
遠 賀 川	299	404	485	889
新 町	365	541	590	1,131
旧 停	106	147	166	313
広 渡	291	477	549	1,026
中 央	176	303	349	652
松 ノ 本	507	913	989	1,902

地区名	世帯数(戸)	男 (人)	女 (人)	計 (人)
上 別 府	288	452	516	968
若 葉 台	37	85	73	158
虫 生 津	161	241	291	532
東 町	140	170	177	347
西 町	72	96	116	212
浅 木	333	509	553	1,062
東 和 苑	380	693	730	1,423
木 守	186	344	360	704
老 良	81	145	148	293
芙 蓉	132	251	258	509
計	4,872	8,052	8,872	16,924

●人口の推移

各年4月1日現在 ※は国勢調査〈10月1日〉による。

区分 年度	人 口 (人)			世帯数(戸)	人 口 密 度 1㎢当り(人)	世 帯 当 構成人員(人)
	総 数	男	女			
30※	10,115	4,906	5,209	1,848	451.4	5.5
35※	9,505	4,590	4,915	1,861	424.1	5.1
40※	8,592	4,106	4,486	1,893	383.4	4.5
45※	9,368	4,435	4,933	2,234	418.0	4.2
50※	10,331	4,910	5,421	2,667	461.0	3.9
55※	14,188	6,852	7,336	3,816	633.1	3.7
58	15,618	7,508	8,110	4,352	696.6	3.6
59	15,924	7,650	8,274	4,463	710.2	3.5
60※	15,993	7,641	8,352	4,500	713.3	3.5
61	16,119	7,710	8,409	4,562	718.9	3.5
62	16,445	7,885	8,560	4,680	733.4	3.5
63	16,672	7,959	8,713	4,779	743.6	3.5

資料 住民登録人口

●年齢別〔5歳階級〕人口

総数 15,994人
不詳3人

歳	男	女
100～	0	1
95～99	1	3
90～94	3	15
85～89	30	88
80～84	65	145
75～79	119	204
70～74	187	264
65～69	258	308
60～64	355	444
55～59	483	456
50～54	485	583
45～49	605	601
40～44	678	663
35～39	647	758
30～34	480	576
25～29	381	434
20～24	377	454
15～19	605	691
10～14	752	722
5～9	617	557
0～4	470	426

資料 昭和60年国勢調査

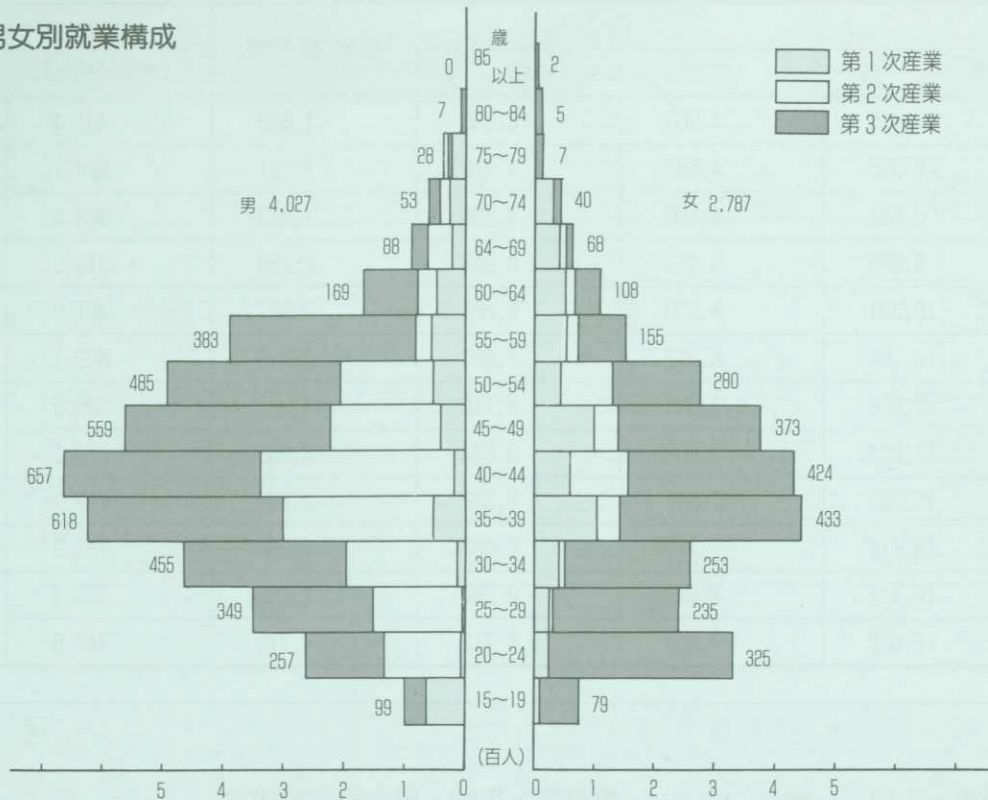
●産業・年齢・男女別就業構成

産業 年齢	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
	男	女	男	女	男	女
85歳以上	—	1	—	—	—	1
80～84	7	1	—	1	—	3
75～79	18	6	3	—	7	1
70～74	28	29	9	2	16	9
65～69	39	40	20	8	29	20
60～64	50	52	37	21	82	35
55～59	46	52	154	22	183	81
50～54	37	46	175	88	237	146
45～49	26	47	232	100	301	226
40～44	17	31	312	136	328	257
35～39	21	21	270	102	327	310
30～34	9	8	184	47	262	198
25～29	2	1	143	27	204	206
20～24	4	2	128	23	125	300
15～19	—	—	41	7	58	72

資料 昭和60年国勢調査

産業

●産業・年齢・男女別就業構成



資料 昭和55年度国勢調査

●産業別就業人口

区分 年度	総数 (人)	第1次産業				第2次産業				第3次産業							
		農業	林業	漁業	構成比	鉱業	建設業	製造業	構成比	卸小売業	金融・保険業	不動産業	運輸・通信業	電気・ガス・水道業	サービス業	公務	構成比
		(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)
昭和45年度	4,452	1,213	—	1	27.3	10	360	1,061	32.1	618	56	9	302	25	614	183	40.6
50	4,670	883	—	1	18.9	8	488	1,099	34.2	783	72	12	296	24	756	234	46.6
55	6,157	709	—	5	11.6	3	744	1,343	34.0	1,260	135	19	406	28	1,137	367	54.4
60	6,927	648	—	2	9.4	4	751	1,573	33.6	1,445	134	39	420	40	1,439	430	56.9

資料 国勢調査

※50年度分類不能14人 55年度分類不能1人 60年度分類不能2人

●業種別事業所

業種	年度	昭和50年度		昭和53年度		昭和56年度		昭和61年度	
	数	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)
総数		322	2,357	383	2,631	499	3,340	524	3,784
水産業		—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業		—	—	—	—	2	9	—	—
建設業		34	402	47	442	64	541	75	663
製造業		36	525	31	367	43	587	46	812
卸・小売業		158	580	195	808	252	1,122	256	1,128
金融・保険業		2	25	5	35	11	48	9	83
不動産業		9	25	12	22	15	51	12	43
運輸・通信業		6	161	8	168	10	228	9	156
電気・ガス・水道業		—	—	—	—	—	—	—	—
サービス業		72	516	80	631	102	754	117	899
公務		5	123	5	158	×	×	—	—

資料 事業所統計調査

農 業

●農家の人口

各年2月1日現在

区分 年度	農家数 (戸)	専業農家 (戸)	兼 業 農 家(戸)			専業率 (%)	農 家 数 35年=100 (戸)	農家人口(人)			農業就業人口(人)			自家農業だけ従事者(人)			1戸当りの 農家人口 (人)
			総 数	農業が主	兼業が主			総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	
昭和45年度	797	99	698	281	417	12	88	4,084	1,900	2,184	2,368	1,130	1,238	1,385	443	942	5
50	691	83	608	232	376	12	76	3,374	1,582	1,792	1,834	916	918	1,020	327	693	5
55	631	78	553	153	400	12	70	3,000	1,425	1,575	1,656	846	810	883	299	584	5
60	582	92	490	121	369	15	64	2,681	1,264	1,417	1,512	763	749	846	280	566	5

資料 農林業センサス統計書

●経営耕地規模別農家数

区分 年度	耕 地 面 積 (a)				経 営 規 模 別 農 家 数 (戸)							
	総 数	田	畑	樹 園 地	総 数	0.3ha 未満	0.3ha~0.5ha	0.5ha~1.0ha	1.0ha~1.5ha	1.5ha~2.0ha	2.0ha~3.0ha	3.0ha 以上
昭和45年度	97,615	88,707	8,632	276	797	143	90	169	112	104	141	38
50	82,074	74,435	7,289	350	691	123	81	161	104	82	104	36
55	79,183	72,068	6,758	357	631	112	81	141	85	77	84	51
60	74,621	67,922	6,278	421	582	131	63	126	72	57	81	52

資料 農林業センサス統計書

●農家世帯員数

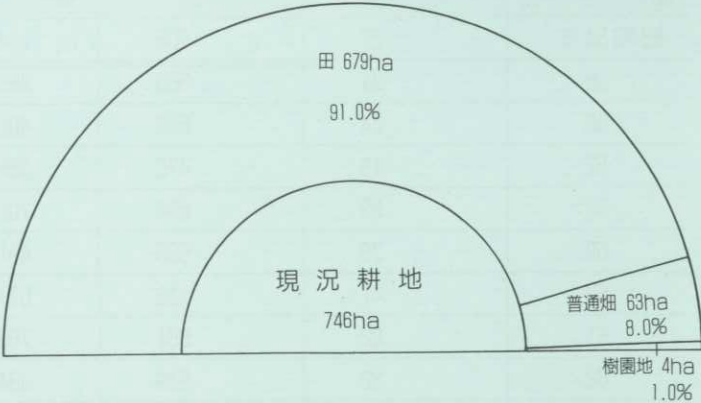
年 齢 階 層	人 数(人)
0 ~ 14	465
15 ~ 19	187
20 ~ 29	336
30 ~ 39	318
40 ~ 49	334
50 ~ 64	547
65 以 上	494
計	2,681

資料 昭和60年農林業センサス

●現況耕地

耕 地 の 種 類	面 積(ha)
田	679
普 通 畑	63
樹 園 地	4
牧 草 地	0
計	746

資料 昭和60年農林業センサス



●農地転用

区分 年度	3 条		4 条		5 条	
	件 数	面 積 (a)	件 数	面 積 (a)	件 数	面 積 (a)
昭和50年度	57	1,289	5	39	52	251
55	53	1,661	11	43	51	349
56	74	3,000	4	17	55	3,453
57	49	1,740	2	5	39	179
58	41	1,039	7	27	48	410
59	51	1,714	5	24	40	215
60	34	1,566	1	2	34	321
61	30	1,395	4	26	29	236
62	29	1,643	3	16	44	338
63	46	2,023	5	41	50	665

資料 農地移動実態調査

工 業

●業種別の事業所数

各年12月31日現在

区分 年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年
総 数	41	32	32	50
食 糧 品	1	1	1	0
木 材 木 製 品	1	1	1	1
家 具 装 備 品	3	2	2	3
窯 業 土 石 製 品	6	5	5	7
鉄 鋼	1	1	0	0
金 属 製 品	7	6	6	12
一 般 機 械 器 具	13	6	6	13
電 気 機 械 器 具	2	2	3	3
そ の 他	7	8	8	11

資料 工業統計調査

●工業の動き

各年12月31日現在

区分 年	事業所数	従事者数(人)	年間製造品出荷額 (万円)	1 事業所 当 り		従事者1人当り 出荷額 (万円)
				従事者数(人)	出荷額(万円)	
昭和54年	27	508	334,148	19	12,376	658
55	31	580	489,415	19	15,788	844
56	24	520	402,793	22	16,783	775
57	19	476	385,093	25	15,005	809
58	39	594	708,591	15	18,169	1,193
59	30	693	491,245	23	16,375	709
60	41	736	571,001	18	13,927	776
61	32	681	783,881	21	24,496	1,151
62	32	679	434,646	21	13,583	640
63	50	936	509,152	19	10,183	544

資料 工業統計調査

商 業

●商業の状況

区分 年度	総 計			卸 ・ 小 売 業			飲 食 店		
	商 店 数	従業者数(人)	年間販売額(百万円)	商 店 数	従業者数(人)	年間販売額(百万円)	商 店 数	従業者数(人)	年間販売額(百万円)
昭 和 51 年	156	499	4,221	132	441	4,128	24	58	93
54	194	783	5,609	164	675	5,355	30	108	254
57	223	894	14,030	183	738	13,527	40	156	503

資料 商業統計調査

建 設

●道路状況

昭和63年 3 月現在

	延 長 (m)	面 積 (㎡)	路 線 数
総 数	203,960	1,159,738	480
国 道	2,860	49,000	1
主 要 地 方 道	9,997	104,093	3
一 般 県 道	12,934	126,239	4
町 道	178,169	880,406	472

●町道の現況

昭和63年 3 月現在

	総延長(m)	改良済延長(m)	路 線 数	舗装率(%)
総 数	178,169	102,340	472	72.4
一 級 町 道	18,703	18,207	9	98.0
二 級 町 道	10,901	9,892	10	99.8
その他の町道	148,565	74,241	453	67.2

●町営住宅の現況

区分 年	総 数 (戸)	構 造 (戸)			
		2 種 木 造	2 種 中 耐	2 種 簡 平	1 種 中 耐
昭和54年	62	10	32	20	—
55	62	10	32	20	—
56	62	10	32	20	—
57	62	10	32	20	—
58	62	10	32	20	—
59	62	10	32	20	—
60	62	10	32	20	—
61	62	10	32	20	—
62	62	10	32	20	—
63	68	10	32	20	6

水道

●用途別給水量

各年3月31日現在 単位：m³

年度	区分	総数	家事用	学校用	官公署
昭和54年度		919,258	875,366	26,904	16,988
55		976,465	924,157	31,275	21,033
56		1,081,278	1,019,827	38,364	23,087
57		1,388,670	1,309,766	49,270	29,634
58		1,430,840	1,352,441	50,795	27,604
59		1,498,860	1,420,919	50,959	26,982
60		1,600,460	1,510,835	56,016	33,609
61		1,686,410	1,567,089	54,024	35,297
62		1,812,560	1,709,552	64,945	38,063
63		1,857,610	1,754,729	66,874	36,007

資料 中間市水道局

●水道の普及状況

各年3月31日現在

年度	区分	給水区域内 人口 (A) (人)	配					水					有 収 率 (%)	給水単価 (円)	給水原価 (円)
			給水人口(B) (人)	普及率 A / B (%)	年間配水量 (千m³)	1 日 平 均 配水量(m³)	1日1人平均 配水量(ℓ)	給水戸数 (戸)							
	昭和54年度	13,631	13,053	95.8	919	2,513	267	3,566	81.9	113.77	114.65				
	55	14,683	14,191	96.6	976	2,674	254	3,868	83.5	113.08	136.69				
	56	15,213	14,618	96.1	1,081	2,962	276	4,029	81.8	113.49	147.29				
	57	15,618	14,968	95.8	1,389	3,805	265	4,171	85.0	147.94	151.22				
	58	15,916	15,340	96.4	1,431	3,920	258	4,288	89.7	149.17	146.06				
	59	15,852	15,788	99.6	1,499	4,106	264	4,428	89.3	148.97	155.15				
	60	16,119	15,938	98.9	1,600	4,385	280	4,511	84.8	150.01	156.51				
	61	16,475	16,284	98.9	1,686	4,620	285	4,634	84.9	150.48	155.90				
	62	16,702	16,690	99.9	1,813	4,966	290	4,779	85.0	150.81	149.13				
	63	16,954	16,949	99.9	1,858	5,089	298	4,880	85.1	152.49	146.77				

資料 中間市水道局

運輸

●JR 遠賀川駅の利用状況

年度	区分	乗客	客
		乗客数(人)	一日平均(人)
昭和54年度		1,089,509	2,985
55		1,190,449	3,262
56		1,320,504	3,618
57		1,391,866	3,813
58		1,441,763	3,939
59		1,487,358	4,075
60		1,609,120	4,408
61		1,594,778	4,369
62		1,504,648	4,122
63		1,595,890	4,372

資料 遠賀川駅

社会福祉

●保育所の状況

各年度3月末日

区分 年度	職 員 数					園 児			開 設 年 月	面積 (㎡)	
	総 数	園 長	保 母	給食婦	その他	総 数	3歳未満	3歳以上		敷 地	建 物
昭和56年度	36	3	27	5	1	330	95	235		5,860	1,886
57	40	3	31	5	1	356	102	254		5,860	2,164
58	39	3	29	6	1	357	93	264		5,860	2,164
59	38	3	28	6	1	351	89	262		5,860	2,164
60	38	3	29	6		339	99	240		5,860	2,164
61	38	3	29	6		351	91	260		5,860	2,164
62	39	3	30	6		357	93	264		5,860	2,164
63	37	3	28	6		335	93	242		5,860	2,164
やまびこ保育園	14	1	11	2		133	37	96	昭和30年4月1日	3,098	912
遠賀川保育園	12	1	9	2		89	32	57	昭和25年4月1日	876	538
南部保育園	11	1	8	2		113	24	89	昭和34年4月1日	1,886	714

●生活保護法による保護状況

区分 年度	世 帯 数 (戸)	人 員 (人)	総 額 (千円)
昭和56年度	225	526	206,283
57	228	515	216,860
58	229	507	225,267
59	233	519	244,194
60	233	498	248,427
61	231	495	249,327
62	226	464	236,489
63	219	433	232,213

国保・年金

●国民健康保険給付状況と決算の推移

区分 年度	年間平均加入世帯数	年間平均被保険者数	受 診 数	費用額 (千円)	費 用 額 (円)			収 入 (千 円)				支 出 (千 円)				
					1件当り	1人当り	1世帯当り	総 額	保 険 税	国県補助	その他	総 額	給付金	老人保健拠出金	保 健 施設費	その他
昭和56年度	1,518	3,876	25,496	542,796	21,289	140,040	357,573	490,240	134,821	288,948	66,471	469,527	429,639	—	—	39,888
57	1,626	4,045	27,588	583,992	21,683	144,374	359,159	490,171	156,472	295,142	38,557	462,719	430,065	11,380	—	21,274
58	1,694	4,186	28,902	630,119	21,802	150,530	382,122	453,759	166,887	253,646	33,418	405,772	229,978	153,846	—	21,948
59	1,747	4,269	31,147	678,357	21,779	158,903	388,298	523,056	175,244	244,930	102,882	461,680	276,422	164,545	2,200	18,513
60	1,842	4,373	32,980	736,906	22,344	168,513	400,058	583,275	186,736	263,388	133,151	542,180	316,428	177,325	3,184	45,243
61	1,908	4,541	34,842	816,825	23,444	179,878	428,105	609,105	203,532	279,015	126,558	559,230	335,440	194,329	3,279	26,182
62	1,992	4,717	36,911	866,169	23,466	183,627	434,824	567,570	244,322	201,226	122,022	509,120	364,641	123,149	2,378	18,952
63	2,025	4,741	39,103	952,838	24,367	200,978	470,537	643,568	241,887	229,579	172,102	569,151	395,440	148,342	2,110	23,259

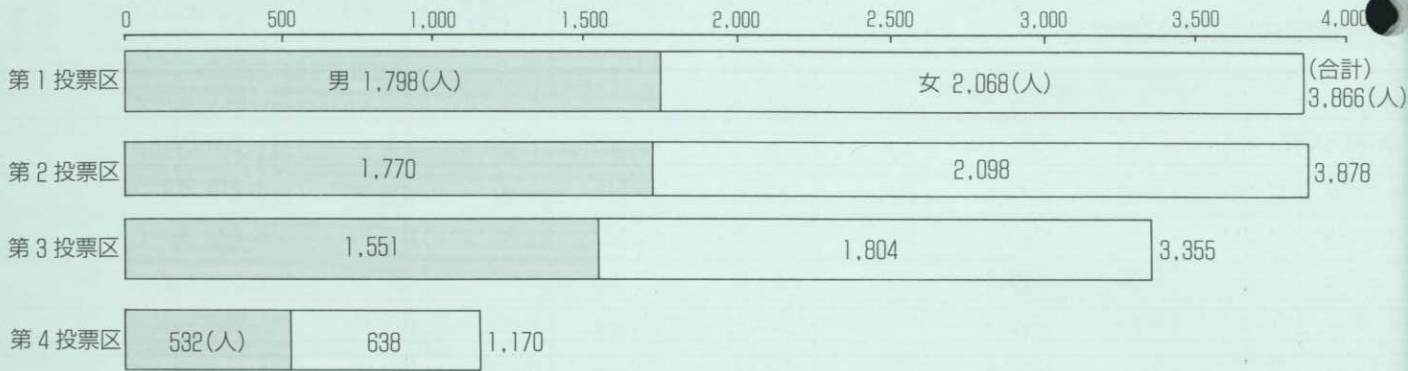
行財政

●町議会状況

区分 年度	招集会		本 会 議 開催日数	常任委員会		特別委員会		年 間 延 提案件数	町長提出議案等				議員提出議案等					請願	陳情
	定例	臨時		設置数	延開催日数	設置数	延開催日数		条例	予算	決議	その他	条例	会議規	意見書	決議	その他		
昭和56年度	4	7	28	2	35	4	20	89	28	28	—	24	—	—	5	2	2	14	2
57	4	8	27	2	32	5	19	115	34	23	—	43	3	1	7	2	2	15	6
58	4	7	25	2	25	4	16	103	26	27	—	34	1	—	11	1	3	13	3
59	4	8	25	2	38	5	28	94	25	32	—	26	—	—	8	2	1	4	11
60	4	9	29	2	38	4	19	108	26	29	—	34	—	—	15	2	2	10	11
61	4	7	25	2	33	4	8	106	28	38	—	29	—	—	9	2	—	3	4
62	4	7	23	2	29	5	14	94	22	28	—	19	2	1	13	2	7	4	7
63	4	4	20	2	34	4	24	84	31	31	—	16	—	—	5	—	1	1	—

●選挙人名簿登録有権者数 12,269人(男5,661人、女6,608人)

平成2年2月2日現在



資料 選挙管理委員会

●各選挙投票状況

選 挙 名	執行年月日	当日有権者数 (人)			投 票 者 数 (人)			投票率 (%)
		総 数	男	女	総 数	男	女	
衆議院	昭和61. 7. 6	11,273	5,252	6,021	9,802	4,487	5,315	86.95
参議院 (選挙区)	昭和61. 7. 6	11,273	5,252	6,021	9,802	4,488	5,314	86.95
参議院 (比例代表)	昭和61. 7. 6	11,273	5,252	6,021	9,792	4,483	5,309	86.86
県知事	昭和62. 4. 12	11,305	5,243	6,062	9,345	4,274	5,071	82.66
県議会議員	昭和62. 4. 12	11,305	5,243	6,062	9,340	4,270	5,070	82.62
町長	昭和62. 4. 26	11,311	5,246	6,065	10,313	4,680	5,633	91.18
町議会議員	昭和62. 4. 26	11,311	5,246	6,065	10,312	4,680	5,632	91.17
参議院補欠 (選挙区)	平成元. 2. 12	11,937	5,516	6,421	6,895	3,261	3,634	57.76
参議院 (選挙区)	平成元. 7. 23	12,102	5,598	6,504	8,683	4,011	4,672	71.75
参議院 (比例代表)	平成元. 7. 23	12,102	5,598	6,504	8,680	4,010	4,670	71.72
衆議院	平成2. 2. 18	12,235	5,642	12,235	10,304	4,645	5,659	84.22

資料 選挙管理委員会

一般会計決算状況

歳入

区分	昭和59年度		昭和60年度		昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度	
	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)
町税	920,188	21.6	1,001,718	20.8	1,082,755	22.1	1,164,883	29.5	1,162,865	25.9
地方譲与税	46,142	1.1	43,773	0.9	45,898	0.9	51,055	1.3	51,998	1.2
利子割交付金	—	—	—	—	—	—	—	—	12,416	0.3
娯楽施設利用税交付金	32,943	0.8	31,811	0.7	35,993	0.7	38,299	1.0	40,164	0.9
自動車取得税交付金	40,371	1.0	41,991	0.9	41,246	0.8	48,107	1.2	54,623	1.2
地方交付金	839,424	19.8	906,039	18.8	969,429	19.8	1,032,046	26.1	1,158,033	25.8
交通安全特別交付金	2,033	—	1,845	—	1,763	—	4,347	0.1	3,361	0.1
分担金及負担金	52,584	1.2	51,425	1.1	51,168	1.1	53,638	1.4	53,145	1.2
使用料及手数料	20,562	0.5	27,904	0.6	31,085	0.6	35,738	0.9	42,506	0.9
国庫支出金	680,926	16.0	620,231	12.9	628,434	12.9	255,934	6.5	378,732	8.4
県支出金	111,634	2.6	252,408	5.3	217,620	4.5	102,298	2.6	121,674	2.7
財産収入	87,257	2.1	101,421	2.1	209,878	4.3	63,362	1.6	57,553	1.3
寄附金	14,571	0.3	0	—	800	—	0	—	0	—
繰入金	29,400	0.7	62,454	1.3	123,380	2.5	103,864	2.6	47,830	1.1
繰越金	520,886	12.2	392,221	8.1	517,355	10.6	365,274	9.2	496,554	11.1
諸収入	463,083	10.9	521,108	10.8	291,496	6.0	200,656	5.1	559,209	12.4
町債	392,200	9.2	756,200	15.7	644,500	13.2	429,800	10.9	246,000	5.5
合計	4,254,204	100.0	4,812,549	100.0	4,892,800	100.0	3,949,301	100.0	4,486,663	100.0

資料 決算書資料

歳出

区分	昭和59年度		昭和60年度		昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度	
	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)
議会費	69,608	1.8	70,185	1.6	72,498	1.6	73,386	2.1	75,361	1.7
総務費	568,062	14.7	476,902	11.1	773,526	17.1	574,103	16.6	1,074,814	24.6
衛生費	332,993	8.6	333,833	7.8	354,957	7.8	340,524	9.9	365,136	8.3
衛生費	150,033	3.9	175,013	4.1	201,041	4.5	235,004	6.8	240,128	5.5
労働費	187,658	4.9	168,817	3.9	92,884	2.1	9,630	0.3	9,798	0.2
農林水産業費	224,370	5.8	206,712	4.8	171,820	3.8	131,015	3.8	105,187	2.4
商工費	32,941	0.9	7,036	0.2	4,009	—	4,412	0.1	4,521	0.1
土木費	900,172	23.3	1,166,812	27.2	1,589,435	35.1	963,111	27.9	739,046	16.9
消防費	108,643	2.8	103,032	2.4	109,672	2.4	125,226	3.6	137,919	3.2
教育費	833,439	21.6	1,058,296	24.6	611,094	13.5	454,166	13.2	825,644	18.9
災害復旧費	164,900	4.3	216,916	5.0	54,130	1.2	7,216	0.2	194,283	4.4
公債費	279,222	7.2	311,640	7.3	492,460	10.9	534,950	15.5	604,249	13.8
諸支出金	9,942	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	3,861,983	100.0	4,295,194	100.0	4,527,526	100.0	3,452,743	100.0	4,376,086	100.0

資料 決算書資料

●町税（現年課税分）のうごきと年度別町税状況

単位：千円

区分	年度	昭和56年度	57	58	59	60	61	62	S63	
									金 額	構 成 比
町 民 税		322,577	384,739	447,964	448,991	501,058	538,999	595,877	564,600	48
固 定 資 産 税		261,024	306,313	341,129	372,176	407,054	455,663	478,037	493,696	42
軽 自 動 車 税		6,629	7,469	8,129	10,169	11,059	12,033	12,604	13,548	1
たばこ消費税		42,744	45,513	45,594	51,845	53,688	61,964	63,125	62,991	6
電 気 ガ ス 税		30,430	30,995	33,719	36,630	40,136	38,684	37,856	38,677	3
特別土地保有税		9,190	8,403	10,504	8,661	407	9,346	389	389	—
調 定 額 計		672,594	783,432	887,039	928,472	1,013,402	1,116,689	1,187,888	1,173,901	100
収入済額計		664,817	774,967	876,351	914,358	992,680	1,074,088	1,157,573	1,144,759	—
収入歩合(%)		98.8	98.9	98.8	98.5	98.0	96.2	97.4	97.5	—

資料 決算書資料
(特別土地保有税徴収猶予を含まず)

●特別会計事業

単位：千円

区分		年度	昭和56年度	57	58	59	60	61	62	63
国民健康保険事業	歳 入		490,240	490,172	453,759	523,057	583,275	609,106	567,570	639,684
	歳 出		469,527	462,720	405,772	461,680	542,181	559,230	509,121	565,266
農業共済事業	歳 入		30,744	35,696	31,386	32,077	34,708	33,166	29,911	36,344
	歳 出		22,416	28,194	22,344	20,733	24,186	25,234	20,944	27,777
住宅新築資金等貸付事業	歳 入		52,959	32,779	50,767	43,836	120,232	154,235	63,257	57,722
	歳 出		37,073	25,342	44,837	30,483	107,184	128,057	39,059	33,506
遠賀霊園事業	歳 入		287,758	254,621	233,920	244,545	225,694	311,300	171,520	156,668
	歳 出		281,659	234,789	221,394	237,280	189,343	294,840	156,046	143,487
学校給食事業	歳 入		127,505	133,057	140,312	143,315	145,104	140,636	146,947	149,365
	歳 出		126,328	132,520	139,642	142,927	144,626	139,955	146,193	148,049
老人保健	歳 入		—	41,994	453,147	543,519	581,217	618,989	638,145	696,252
	歳 出		—	33,389	466,642	541,751	584,704	623,991	634,448	693,006

資料 決算書資料

教 育

●小中学校、高校の状況

各年度5月1日現在

		区分 \ 年度	昭和58年度		昭和59年度		昭和60年度		昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度		
島門小学校		教 員 数	22		22		20		21		21		23		26		
開設年月日	M35. 9. 2	学 級 数	16		17		15		16		17		18		19		
面積 (㎡)		児 童 数	551		580		557		559		573		628		666		
敷 地	建 物	男	女	280	271	299	281	289	268	293	266	289	284	319	309	344	322
18,089	5,212	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数	25.0		26.4		27.9		26.6		27.3		27.3		25.6		
広渡小学校		教 員 数	18		18		19		17		17		17		17		
開設年月日	S52. 4. 1	学 級 数	12		12		11		11		11		11		11		
面積 (㎡)		児 童 数	416		384		354		343		327		319		295		
敷 地	建 物	男	女	204	212	187	197	172	182	173	170	175	152	168	151	149	146
21,120	4,358	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数	23.1		21.3		18.6		20.2		19.2		18.8		17.4		
浅木小学校		教 員 数	23		22		22		24		24		23		23		
開設年月日	M7. 4. 1	学 級 数	18		18		17		18		17		17		18		
面積 (㎡)		児 童 数	684		646		614		610		568		535		537		
敷 地	建 物	男	女	339	345	325	321	307	307	316	294	302	266	295	240	297	240
17,427	4,929	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数	29.7		29.4		27.9		25.4		23.7		23.3		23.3		
遠賀中学校		教 員 数	37		25		25		24		27		23		25		
開設年月日	S22. 4. 1	学 級 数	22		13		13		13		14		13		14		
面積 (㎡)		生 徒 数	879		538		536		523		549		543		541		
敷 地	建 物	男	女	431	448	258	280	278	258	268	255	279	270	276	267	271	270
24,984	6,148	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数	23.8		21.5		21.4		21.8		20.3		23.6		21.6		
遠賀南中学校		教 員 数	／		17		19		18		19		20		19		
開設年月日	S59. 4. 1	学 級 数			9		9		9		9		9		9		
面積 (㎡)		生 徒 数			365		355		361		345		339		335		
敷 地	建 物	男			女	191	174	188	167	186	175	181	164	162	177	173	162
36,504	5,697	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数			21.5		18.7		20.1		18.2		17.0		17.6		
遠賀高校		教 員 数	45		44		45		46		45		47		48		
開設年月日	M43.12. 7	学 級 数	18		18		18		18		18		19		19		
面積 (㎡)		生 徒 数	707		687		707		732		742		796		797		
敷 地	建 物	男	女	429	278	418	269	407	300	420	312	391	351	425	371	418	379
127,689	16,826	教 員 一 人 当 り の 生 徒 数	15.7		15.6		15.7		15.9		16.5		16.9		16.6		

資料 学校基本統計調査

保健衛生

●病院と診療所の状況

年度	区分	病 院		診 療 所		
		総 合	内科外科	内科小児科	外 科	歯 科
昭和56年度		—	—	6	1	4
57		—	—	6	1	4
58		—	—	5	1	4
59		—	—	6	1	5
60		—	2	6	1	5
61		—	2	6	1	5
62		—	2	6	1	5
63		—	2	6	1	5

●し尿処理状況

(単価：kl)

年度	区分	収集世帯数	収 集 量	
		(戸)	総 数	1日平均
昭和56年度		2,392	7,390	25
57		2,551	7,706	26
58		2,573	10,583	35
59		2,596	12,760	43
60		2,638	12,481	42
61		2,591	12,394	42
62		2,594	14,277	48
63		2,584	12,306	41

●原因別の死亡者数

(単位：人)

区分 年度	総 数	脳 血 管疾患	心臓疾患	悪 性 新生物	高血圧	不慮の 事 故	肺 炎 気管支炎	全結核	老 衰	慢性肝炎及 び肝硬変症	糖尿病	腎炎及び ネフローゼ	自 殺	その他
昭和56年度	103	18	21	17	—	—	8	—	9	—	4	—	4	22
57	111	29	13	27	3	3	10	3	5	—	—	3	—	15
58	106	11	14	34	4	8	9	—	7	2	2	—	—	15
59	109	18	12	36	4	4	7	—	9	5	2	—	1	11
60	116	22	20	31	2	1	9	—	—	4	1	3	3	20
61	119	28	26	28	1	2	4	—	—	4	3	2	6	15
62	116	19	28	22	4	2	11	—	—	4	2	4	3	17
63	88	20	11	28	—	4	6	1	—	4	1	1	3	9

●ゴミ処理状況

(単位：トン)

区分 年度	収 集 世 帯 数 (戸)	収 集 量	
		総 数	1 日 平 均
昭和56年度	3,560	3,083	10
57	3,783	3,398	11
58	3,770	3,639	12
59	3,890	3,677	12
60	2,990	3,364	11
61	4,054	3,734	13
62	4,237	4,153	14
63	4,356	4,532	15

●交通事故発生状況

区分 年度	人身事故発生件数	死 者 (人)	傷 害 (人)
昭和57年度	111	1	149
58	80	3	106
59	89	0	127
60	96	1	132
61	91	0	135
62	101	4	132
63	96	4	123

●火災発生状況

(暦年により統計)

区分 年度	出 火 件 数 (件)				焼 損 むね数	被災世帯数 (戸)		焼 損 面 積		死 傷 者 (人)	損害額(千円)
	総 数	建 物	山林原野	その他		全 損	半損・小損	建物(㎡)	山林原野(a)		
昭和57年度	11	5	—	6	6	1	5	251	—	1	10,030
58	9	4	1	4	5	1	4	81	3	—	1,925
59	12	5	2	5	5	—	3	114	11	—	4,261
60	6	3	—	3	3	—	3	179	—	—	17,595
61	9	1	—	8	3	1	1	149	—	—	21,481
62	12	6	1	5	6	—	5	15	9	2	5,125
63	15	6	—	9	3	—	4	0	—	1	1,114

遠賀町指定文化財一覧

指定種別	指 定 名 称	指定年月日	所 在 地	所有者住所氏名
絵 画	菅廟12勝図及び 法楽和歌絵馬一双	平成元年 4月10日	遠賀町大字上別府	遠賀町大字上別府 菅原神社
〃	上野良秀肖像画一幅	〃	遠賀町大字上別府	遠賀町大字上別府 上野寛次
〃	36歌仙板額 7 点	〃	遠賀町大字浅木	遠賀町大字浅木 浅木神社
彫 刻	木造薬師如来座像	〃	遠賀町大字虫生津	遠賀町大字虫生津 長楽寺
書 跡	年曆算	〃	遠賀町大字鬼津	遠賀町大字鬼津 井口絹子
〃	堀川筋條目	〃	遠賀町大字今古賀	遠賀町大字今古賀 遠賀町教育委員会
〃	奉伺覚	〃	遠賀町大字木守	遠賀町大字木守 木守区
〃	小野庄屋文書	〃	遠賀町大字今古賀	遠賀町大字今古賀 遠賀町教育委員会
考 古 資 料	細形銅矛	〃	遠賀町大字尾崎	遠賀町大字尾崎 旗生良徳
史 跡	島津丸山古墳	〃	遠賀町大字島津	遠賀町大字広渡 大場芳郎外
〃	城の越貝塚	〃	遠賀町大字上別府	遠賀町大字上別府 桝田茂蔵

島津丸山古墳

▷所在地 遠賀町大字島津574番地

▷地権者 大場 芳郎氏 他

指定理由

昭和55年4月に、島津丸山古墳調査会による測量調査がおこなわれている。これによると全長57㍍、前方部幅15㍍、同高さ1.5㍍、後円部直径27㍍、同高さ3.75㍍の前方後円墳である。墳形は、前方部がきわめて低く、しかも楕形にひらくという、前期古墳特有の形をしている。地表面の観察に限られるが、埴輪類はなく、西側斜面に川原石の葺石が散見される。後円部頂上は平坦部が広いなど、いずれも古式古墳の特色をそなえている。遠賀川流域では、50㍍をこえる前方後円墳は未見であり、とくに前期にさかのぼるものがないことから、本古墳は、重要な学術的価値を有している。

城の越貝塚

▷所在地 遠賀町大字上別府字城の越1018番地

▷地権者 桝田 茂蔵 氏

指定理由

この遺跡は、弥生時代の貝塚を主体とする。昭和27年、同33年の2回にわたり日本考古学協会弥生式土器文化総合研究特別委員会の学術調査がおこなわれている。遺物の分布範囲は低丘陵の裾に約400平方㍍にわたってひろがり、丘陵上には集落の存在も推定される。遺物は、数層にわたってヤマトシジミを主体にして、多量の海水産貝類、動物骨が出土する。また多量の土器、石鏃、石斧、石剣、砥石、石包丁が出土した。最下層の土器は弥生時代前期末に位置づけられ、これに接する弥生中期初頭の土器群は、「城の越式土器」と命名され、九州北部の土器編年上、重要な標識となっている。

細形銅矛

- ▷所有者 旗生 良徳 氏
▷出土地 遠賀郡岡垣町大字吉木字元松原

指定理由

岡垣町元松原所在の砂丘が削られた際、破壊された箱式石棺群の副葬品とみられる銅剣、銅戈、鉄矛、鉄鈍等が採集されている。本銅矛もその一括資料の一部である。現在長16.7cm、刃部幅38mm、袋部外径29mmである。きつさき部は折損しているが、その後、研磨して再使用した痕跡が認められる。復元全長は、21cm前後である。この種の細形銅矛は、弥生時代前期末に、朝鮮製の細形銅剣や多鈕細文鏡などを伴って出土する例（佐賀県唐津市字木汲田、福岡市西区吉武高木）があり、弥生前期末の金属器文化の受容をめぐる全国でも数少ない考古資料である。出土地は岡垣町に属するが所有者が当町民であり、遠賀郡内の古代史上の貴重な価値からみて当町で指定すべきものである。

木造薬師如来坐像

- ▷所有者 長楽寺
▷所在地 遠賀町大字虫生津

指定理由

本像は、樟材一木造りで、像高49.3cmの薬師如来坐像である。頭部膝前、指先まですべて樟一木から彫り出されており、その表現には頭部の大きめの肉髪部、丸く弧を描く眉、頬、顎の丸いつくりだし等、古式の彫刻技法を残し、胸部を大きくU字形にあげる等、中世後半の仏像の特徴をもつといわれている。九州歴史資料館学芸員、八尋和泉氏の所見によれば、作者名、制作年代等の記銘はないが、室町時代初期（1400年ごろ）の地方仏師の作と考えられる（遠賀町誌861頁参照）。本像は虫害のため右手指先を失っており、早急な保護策が望まれる。

安藤菊園作品三点一括

1. 上別府・菅原神社「菅廟十二勝図・法楽和歌絵馬」一双

- ▷所有者 菅原神社
▷所在地 遠賀町大字上別府

指定理由

本絵馬をふくむ三点の作者は、「新書画人名鑑」によれば、江戸時代末の福岡の画家で天保11年（1840年）生まれ、椿椿山に師事、慶応年間まで福岡、明治期は横浜に在住した。本絵馬は、慶応元年当神社の神官・上野良秀、別府村大庄屋・仰木廉助らの近在の庄屋や有力者によって、この地方の風物景観を歌った献句と絵が、樟の一枚板に優雅な筆致で描かれている。現在は文字、絵とも薄れているが、慶応期の地方絵師の実態を知る貴重な史料である。

1. 「上野良秀肖像画」一幅

- ▷所有者 上野 寛次 氏
▷所在地 遠賀町大字上別府

指定理由

菅原神社「菅廟十二勝図・絵馬」の筆者・安藤菊園が、同神社の神官上野良秀を描いた肖像画で、絵馬の製作と同じ慶応元年の銘がある。絵馬の製作で当地にきたさい、同時に描いたものとみられる。指定理由は、前項に準じる。

1. 「三十六歌仙板額」七点

- ▷所有者 浅木神社
▷所在地 遠賀町大字浅木 浅木神社

指定理由

この、三十六歌仙の板額は、絵を安藤菊園が描き歌の文字を黒田藩士らが書いている。現存の七枚は、大伴家持、藤原仲文、素性法師、猿丸太夫、中務、源公忠、藤原元真、である。絵は、慶応二年に菊園が描いたもので、門司成重氏所蔵の「慶応二年抄録」に菊園が五月から八月まで当所に来て製作に当たったという記録がある。板額は製作年もわかる、貴重な史料である。

1. 「年暦算」

- ▷所有者 井口 絹子 氏
▷所在地 遠賀町大字鬼津

指定理由

井口家の祖・井口又七氏に始まり、延宝元年（1673年）から明治九年（1876年）まで約200年間にわたる記録である。又七、小七、太郎右衛門、彦五郎、宗蔵、茂吉、彦五郎と七代に及び井口家の家譜である。遠賀郡内の出来事を中心にした克明な記録を通して、当時の風俗、習慣、諸行事、藩政なども知ることが出来る。とくに明治初年の記録は当地方を知る貴重な史料といえる。

1. 「堀川筋條目」

- ▷所有者 町民俗資料館 （土師晋氏寄贈）

指定理由

吉田村車返の一田家に伝わる当文書は、明和2年2月から明治3年5月までの期間の堀川の通船にかかわる通船料をはじめとする諸規定の取り決めである。郡奉行と車返の一田家との間に200年にわたる条目書として、堀川にかかわる貴重な史料である。

1. 「奉伺覚」

- ▷所有者 遠賀町大字木守区（町民俗資料館保管）

指定理由

文化六年、西川の改修工事によって生じた木守区と別府区との土地境界の処置方法を藩に伺い立てた文書の控えである。本文書中、「巳七月」は文化六年（1809年）に当たり、この年、遠賀川本流の瀬戸付近の閉止による排水不良が、この工事で著しく改良された。ことに鞍手地方の水吐川として室木川上流の土地改善が推察され、郡奉行永田伊佐衛門の遠賀地方での事業の一端を知ることのできる史料である。

1. 「小野庄屋文書」

- ▷所有者 町民俗資料館（小野勝氏寄贈）

指定理由

「御国中高附」「若松村田畠軸帳」「若松村葦坪軸帳」「若松村田畠名寄帳」「若松村明細帳」「若松村葦坪書上帳」「若松村宗旨御改帳」などをはじめとする庄屋文書八十八通からなるものである。之等の文書によって藩制時代から明治初年の村落の有様を知ることが出来ると共に、遠賀地方の一般的な農村の生活等についても想像することができる。この種の文献が当地方では非常に少ないので特に重要なものである。

町政のあゆみ

昭和4年4月 浅木村、島門村合併し、遠賀村となる
5年 神田川農業用水開通
6年 国道3号線開通
6月 遠賀村庁舎落成
9年6月 大早魃あり、寿命堰ネコ掛け及び塩田堰築堤
10年 金丸鉱業、虫生津地区にて開鉱
22年3月 国鉄芦屋線開通（占領軍専用）
4月 学制改革による遠賀中学校開校
28年6月 西日本大水害 遠賀川（植木）堤防決潰
30年3月 国道3号線遠賀川大橋（下り線）完成
5月 遠賀村公民館落成
32年3月 遠賀村簡易水道事業開始
35年8月 養老施設「遠賀静光園」開設
36年6月 国鉄芦屋線廃止
37年2月 三菱鉱業㈱鞍手抗閉山
39年3月 鞍手町、遠賀村水道組合発足

遠賀町制施行から

昭和39年4月 町制施行
〃 国土調査事業開始
〃 遠賀郡農業協同組合発足
40年3月 島門小学校校舎（鉄筋防音改築）落成
41年2月 農村集団電話開通（317戸）
3月 有線放送施設完成（島津他9地区）
〃 町北部（島津、若松、鬼津、尾崎地区）水道布設事業開始
42年4月 遠賀中学校校舎（鉄筋防音改築）落成
12月 島門小学校講堂落成
43年3月 町北部水道開始（鬼津、尾崎）
〃 西川湛水防除事業広瀬排水機場完成
44年3月 浅木小学校校舎（鉄筋防音改築）落成
4月 町道山手線舗装事業開始
5月 都市計画区域（町全域）の指定を受ける
45年10月 遠賀中学校講堂（改築）落成
46年3月 鬼津地区学習等供用施設（公民館）落成
4月 遠賀農芸高等学校上別府地区に移転授業開始
5月 国道3号線遠賀バイパス建設開始
〃 遠賀町水道事業中間市水道に併合
6月 遠賀郡農協本所庁舎落成
〃 上別府花園排水機場（移設）完成
47年3月 尾崎地区学習等供用施設（公民館）落成
〃 県道宮田・遠賀線立体交差完成
5月 遠賀庁舎（移転）落成
〃 遠賀郡消防署落成
10月 農業振興地域の指定を受ける
48年6月 虫生津排水機場完成
〃 一市四ヶ町火葬場（天生園）完成
11月 中牟田第一土地区画整理組合設立認可
12月 都市計画用途地域の指定を受ける
49年1月 国鉄室木線専用機関車SL姿を消す
5月 遠賀川郵便局（移転）落成
〃 老人憩の家落成
6月 鞍手町、遠賀町水道組合解散、中間市水道に移管
12月 国道3号線遠賀バイパス片側二車線開通
50年4月 広渡地区学習等供用施設（公民館）落成
〃 若松地区学習等供用施設（公民館）落成
9月 遠賀町中央公民館落成
51年1月 都市計画道路計画決定
3月 木守集会所落成
7月 第1、第2道管橋完成
8月 都市計画道路計画変更
10月 遠賀町民俗資料館開館
12月 浅木簡易郵便局開局
52年4月 広渡小学校落成開校
〃 給食センター落成

昭和52年4月 中学校学校給食開始
11月 遠賀町土地開発公社設立
53年1月 広渡小学校体育館落成
3月 今古賀地区学習等供用施設（公民館）落成
〃 別府集会所落成
7月 広渡小学校ナイター施設完成
54年4月 浅木小学校校舎（増築）落成
〃 第1武道場落成
〃 西町町営住宅落成
〃 道管集会所落成
〃 蓮角土地区画整理組合設立認可
〃 遠賀、中間地域広域行政事務組合発足
6月 町営遠賀霊園開園
〃 島門小学校体育館（新築）落成
55年3月 遠賀中学校校舎（増築）落成
〃 遠賀川河口堰（49年4月着工）完成
〃 木守地区学習等供用施設（公民館）落成
4月 遠賀静光園移転落成
〃 曲手排水機場完成
〃 前川排水機場完成
56年2月 今古賀土地区画整理組合設立認可
3月 浅木小学校体育館（新築）落成
〃 島門小学校校舎（増改築）落成
〃 第2武道場落成
4月 休日急病センター落成
6月 尾倉排水池（上水道）完成
7月 遠賀勤労者体育センター落成
57年7月 北九州市外局番統一化
〃 島津橋完成
11月 木守橋完成
58年5月 馬頭岳ハイキングコース完成
虫生津新屋敷から千代丸を結び6キロのコースは、遠賀郡内全域、遠く玄界灘から英彦山、福智連山が眺望でき、自然を満喫するにはもってこいのハイキングコース。
9月 第1回遠賀町子どもまつり開かれる。
10月 第1期ボランティアスクール始まる。
各地区の公民館や子供会育成会から推薦された人や、小・中学校、保育園の先生などボランティア活動に関心をもち将来リーダーを志す60名を対象に10月から翌年3月まで毎週1回講座が開かれた。
59年2月 総合運動公園グラウンド完成
3月 浅木地区公民館落成
〃 総合運動公園ナイター施設完成
4月 遠賀南中学校落成開校
5月 春まつり “第2回遠賀町子どもまつり、盛大に開かれる。
8月 遠賀南中学校屋内運動場と武道館完成
〃 町制施行20周年記念式典
11月 遠賀町弓道場完成
60年3月 国鉄室木線廃止
〃 遠賀川駅前自転車駐輪場完成
11月 花園橋完成
61年1月 前川排水路改修工事完成
3月 アスレチック広場完成
5月 遠賀コミュニティセンター落成（オープン）
62年5月 パティーバットゴルフ場完成
8月 水辺の広場完成
〃 老人憩の家送迎バス運行開始
10月 戸切川改修工事始まる。
63年3月 高瀬排水路改修工事完成
10月 遠賀町民体育館完成
平成元年3月 緑の広場完成
10月 遠賀川駅前街路灯設置
2年3月 道官町営住宅完成

ONGA

1990

遠賀町 町勢要覧

発行／遠賀町

福岡県遠賀郡遠賀町

大字今古賀513

TEL (093) 293-1234

FAX (093) 293-0806

印刷／秀巧社印刷株式会社



福岡県遠賀町